資料3

令和７年度　第１回　札幌都心エネルギープラン推進委員会
兼
（仮称）第３次都心まちづくり計画検討会
第４回　都心の脱炭素化に向けたエネルギー施策検討部会

2025年７月11日

札幌市　都心まちづくり推進室

目次

１　第３回エネルギー部会の振り返り

２　新たな計画の素案について

３　次回のエネルギー部会について

本日、ご議論いただきたいこと

１　目標３に関するモニタリング指標について

- エネルギーに係るモニタリングを行っていくうえでの指標として過不足がないか　など

２　新たな計画の素案について

- エネルギーの観点から全体を通して内容の過不足がないか　など

目次

１　第３回エネルギー部会の振り返り

２　新たな計画の素案について

３　次回のエネルギー部会について

1　これまでのエネルギー部会の振り返り

(1)　見直しのスケジュール

令和６年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
都心まちづくり計画検討会			①(6/6) ▼			②(9/17) ▼					議会報告 ③(2/27) ▼	
推進委員会　兼 エネルギー部会				①(7/29) ▼ 振り返り、課題認識、見直しの視点の整理				②（11/25） ▼ 基本方針、目標、取組の方向性		③（1/31） ▼ 骨子案		※（3/24） ▼ 現行プラン進捗管理

※推進委員会単独での開催

令和７年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
都心まちづくり計画検討会				④(6/30) ▼		⑤ ▼		庁内合意形成	議会報告	パブコメ	⑥ ▼	策定 ▼
推進委員会　兼 エネルギー部会				④（本日） ▼ 素案			⑤ ▼ 計画案、計画策定後の主な取組					

部会の検討テーマ（案）		
令和６年度	第１回	振り返り、課題認識、見直しの視点の整理
	第２回	基本方針、目標、取組の方向性
	第３回	骨子案
令和７年度	第４回	素案
	第５回	計画案、計画策定後の主な取組

1　第３回エネルギー部会の振り返り

【第3回部会(1/31開催)の論点】

論点1:取組を進めるエリア区分について

● 土地利用やエネルギー利用の状況から得られた視点を踏まえ、エネルギー施策を進めるためのエリアを設定。

脱炭素化・強靭化先導エリア

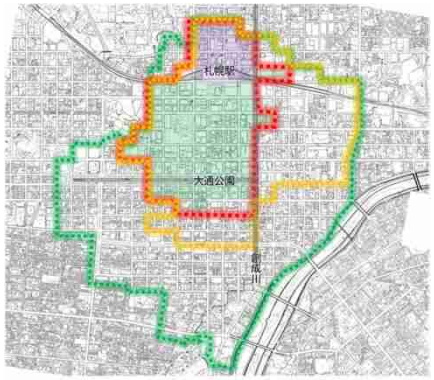
既存の熱供給ネットワークインフラの積極的な活用による脱炭素化の実現と強靭性の確保により、世界から信頼される持続可能な都心に向けた取組を先導するエリア

脱炭素化推進エリア

建物の更新や面的開発の機会を捉え、最適な手法の組み合わせにより脱炭素化を推進するエリア

脱炭素化促進エリア

都心のエネルギー利用に関する進捗管理を行う区域として、小規模な建物や既存の建物も含めて脱炭素化を促進するエリア



論点2:エネルギー施策の取組の方向性について

● 基本方針に基づいた取組の方向性

1　最適な手法の組み合わせによる脱炭素化の推進

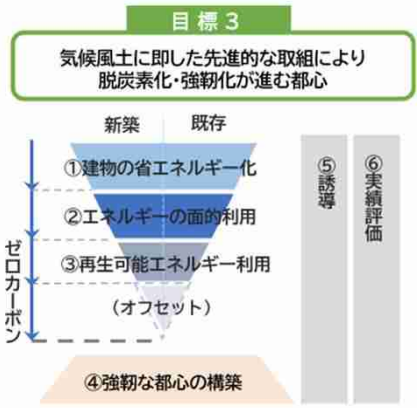
・建替更新や改修時における省エネ化
・大規模開発と連動したエネルギーセンターの整備や冷温水導管の拡大
・オンサイトでの再エネ導入　など

2　誰もが安全・安心に都市活動を行える強靭な都心の構築

・分散電源比率を増やし非常時の自立機能を強化
・一時滞在施設への電力、熱、水の供給継続　など

3　先進的な取組の誘導と適切な進捗管理

・「札幌都心E!まち開発推進制度」における事前協議の運用改善　など



建物における目標実現に向けた取組イメージ

【主なご意見】

- 三つのエリアに分けてモニタリングするなど、実績評価のやり方も検討しながら進めると良い。
- 中小企業のビルでどのように脱炭素の取組を実現していくかは、どこの都市でも課題となるところであり、大事な観点である。
- 促進エリアと推進エリアという言葉が読み手に取ってわかりにくいのではないか。

- 都心の脱炭素化に向けて①～③の順番をどう考えるのかが重要。これを明確にした方がよいのではないか。
- 脱炭素化の取組について需要側だけではなく、供給側の取組についても、計画の中で読み取れるようにするのが良いのではないか。
- CO2削減効果をモニタリングで適切に評価して認定するなど、不動産価値を上げていくような仕組みについて、今後アクションプログラムの検討の中で議論したい。

目次

１　第３回エネルギー部会の振り返り

２　新たな計画の素案について

３　次回のエネルギー部会について

2　新たな計画の素案について

計画構成

序章　計画策定の背景

1章　計画の目的と位置付け

2章　現状と課題

3章　都心まちづくりの理念・目標と都心の基本構造

3.1　理念と目標

〈理念〉

世界が憧れ、市民が誇れる、札幌・北海道の都心

〈目標〉

目 標 1
多様なひと・もの・ことが集まり新たな産業・文化・交流が生まれる都心
目指す姿（成果指標）

目 標 2
冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心
目指す姿（成果指標）

目 標 3
気候風土に即した先進的な取組により脱炭素化・強靭化が進む都心
目指す姿（成果指標）

3.2　都心の基本構造

（1）骨格構造
都心まちづくりを牽引する中核的な軸と拠点

（2）エネルギー施策のエリア区分
地域特性に応じたエネルギー施策を進めるエリア

4章　取組の方向

4.1　目標に向けた取組の方向

（1）目標1の実現に向けた取組の方向

（2）目標2の実現に向けた取組の方向

（3）目標3の実現に向けた取組の方向

4.2　都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

骨格軸　展開軸　交流拠点　展開拠点

5章　重点的に進める取組

6章　取組の進め方

仕組みと体制　連鎖的な取組の展開

（本計画策定後に整理することを想定）　**中期アクションプログラム**　基本方針に即した具体の取組・施策　【取組ごとの活動指標を設定】

序章　計画策定の背景　・・・・・・・・・・・・・・・P.９～10

第１章　計画の目的と位置付け・・・・・・・・・・・・・P.11～12

第２章　現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.13～18

第３章　理念・目標と都心の構造・・・・・・・・・・・・P.19～28

第４章　取組の方向・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.29～72

第５章　重点的に進める取組・・・・・・・・・・・・・・P.73～81

第６章　取組の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・P.82～84

■序章　計画策定の背景　－2計画統合の趣旨－

- ✓ 現在、都心のまちづくりは、「第2次都心まちづくり計画」と「都心エネルギープラン」を両輪の計画として進めていますが、対象区域の相違、取組の重複、別々の進行管理などの課題があります。
- ✓ これらの課題に対応し、都心まちづくりの総合性と一体性の確保・強化等を図るため、両計画を統合します。

現状の計画

『第2次都心まちづくり計画』

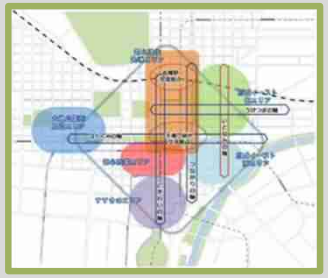
都市機能・都市空間等に関する都心まちづくりの指針

『都心エネルギーマスタープラン』

都心のまちづくりを支える環境エネルギー施策の指針

（2計画間の課題）

対象区域の相違



取組の重複

まちづくりの戦略（抜粋）

1　ビジネス・都市観光機能の強化と成熟型都市環境の実現

2　持続可能なまちの実現

3　魅力的なライフ・ワークスタイルを生む都市空間の形成

基本方針

1　低炭素

2　強靭

3　快適性・健康

別々の進行管理

第2次都心まちづくり計画展開プログラム

都心エネルギーアクションプラン

計画の統合

『（仮称）第3次都心まちづくり計画』

ねらい①　都心まちづくりの総合性と一体性の確保・強化

ねらい②　重点戦略の明確化

ねらい③　進行管理の一体化による実効性の確保

序章　計画策定の背景　・・・・・・・・・・・・・・・・P.９～10

第１章　計画の目的と位置付け・・・・・・・・・・・・・P.11～12

第２章　現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.13～18

第３章　理念・目標と都心の構造・・・・・・・・・・・・P.19～28

第４章　取組の方向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.29～72

第５章　重点的に進める取組・・・・・・・・・・・・・・P.73～81

第６章　取組の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.82～84

1.1　計画策定の目的

〇長期的なビジョンの明確化
・市民・事業者等とビジョンを共有する
・国内外へ札幌都心の可能性・魅力を発信する

〇「公民連携による推進方策」の共有
・「公民連携によるまちづくりの取り組み方」を提示し、計画の実行性を確保する

1.2　計画体系、計画期間、計画対象区域

〈計画体系〉

第２次札幌市まちづくり戦略ビジョン（2022）

札幌市都市計画
マスタープラン
（2025改定予定）

札幌市
立地適正化計画
（2025改定予定）

（仮称）第３次都心まちづくり計画
次期「都心エネルギーマスタープラン」を包含する

都心のエリア別計画・方針
・札幌駅交流拠点まちづくり計画
・大通及びその周辺のまちづくり方針
―札幌都心はぐくみの軸強化方針―など

関連する部門別計画
・札幌市都市再開発方針（※）
・札幌市景観計画（※）
・札幌市総合交通計画
・札幌市強靭化計画
・第２次さっぽろ未来創生プラン（※）
・札幌市気候変動対策行動計画（※）
・札幌市水素エネルギー基本方針
・札幌市都心のみどりづくり方針
・第２次札幌市産業振興ビジョン
・第２次札幌市観光まちづくりプラン
・（仮称）札幌市ウォーカブルビジョン（※）
など
※策定及び見直し中

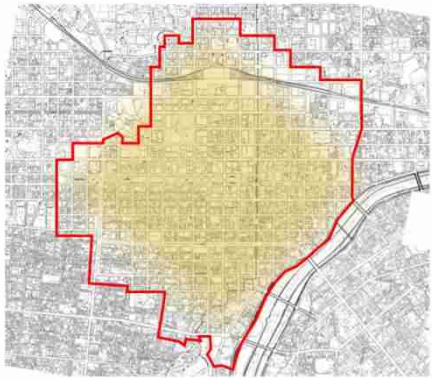
〈計画期間〉 概ね20年

〈計画対象区域〉

- ✓ 本計画の対象区域は、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンに示される都心の範囲を踏襲し、計画対象区域とします。
- ✓ なお、都心周辺の高次機能交流拠点の取組と連携を図るなど、都心の機能強化につながる取組については、計画対象区域に関わらず柔軟に対応していきます。
- ✓ 数値管理を行っていくため、エリアを明確に定めた進捗管理上の区域を別途設定します。
- ✓ 進捗管理を行う区域は、立地適正化計画において都市の魅力を高める都市機能等の集積を図る区域として定められている「都市機能誘導区域（都心）」の区域を踏まえて設定します。（苗穂エリアを除く）

計画対象区域

進捗管理区域



序章　計画策定の背景　・・・・・・・・・・・・・・・・P.９～10

第１章　計画の目的と位置付け・・・・・・・・・・・・・P.11～12

第２章　現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.13～18

第３章　理念・目標と都心の構造・・・・・・・・・・・・P.19～28

第４章　取組の方向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.29～72

第５章　重点的に進める取組・・・・・・・・・・・・・・P.73～81

第６章　取組の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.82～84

第２次都心まちづくり計画

○骨格構造の強化に向けた都市空間の形成

- ✓ 骨格軸や交流拠点の形成
- ✓ オープンスペースネットワークの形成
- ✓ 地下ネットワークの形成
- ✓ 創造都市さっぽろを象徴的に発信する場の創出

チ・カ・ホ（にぎわいの軸）

アカプラ（うけつぎの軸）

図書・情報館(大通・創世交流拠点)

○エリア単位のまちづくりの推進

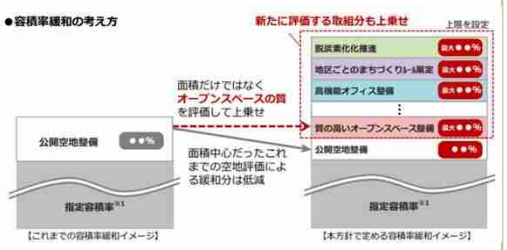
- ✓ エリアマネジメント組織の組成
- ✓ 地区まちづくり推進制度（事前協議の仕組み）の創設

札幌駅前通まちづくり株式会社

I LOVE ŌDŌRI
札幌大通まちづくり株式会社

○開発の誘導

- ✓ 都心における開発誘導方針
- ✓ 札幌都心Ｅ!まち開発推進制度



札幌都心Ｅ!まち開発推進制度

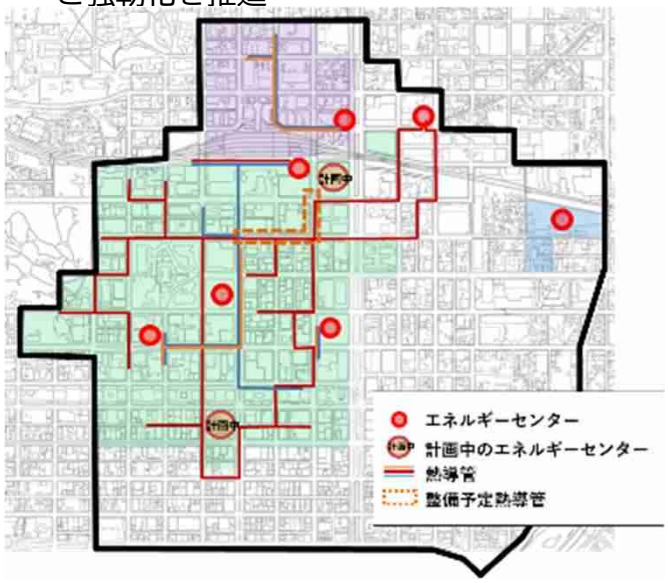
都心エネルギーマスタープラン

○目標数値の設定

- ✓ 2050年CO_2排出量：2012年比で80%削減

○エネルギーネットワークの整備拡充

- ✓ 大規模開発計画と連動したエネルギーネットワークの整備拡充
- ✓ エネルギーの面的利用の拡大により低炭素化と強靭化を推進

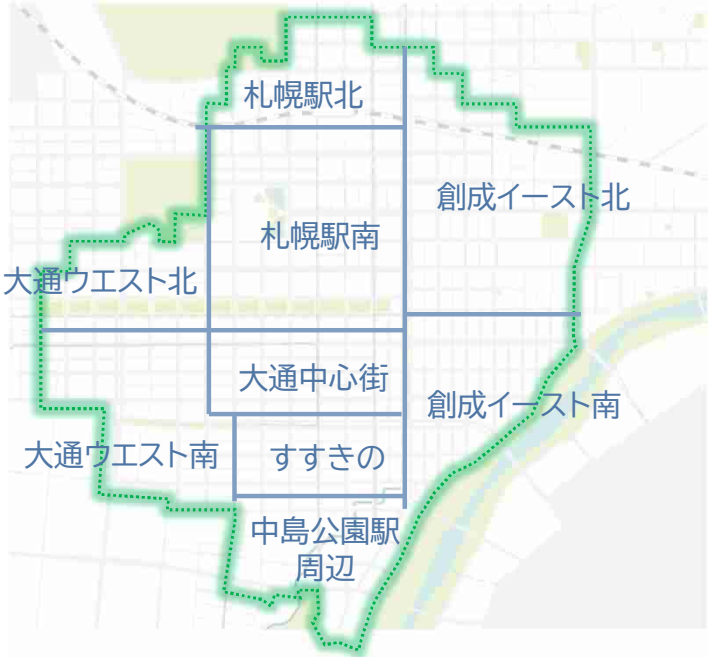


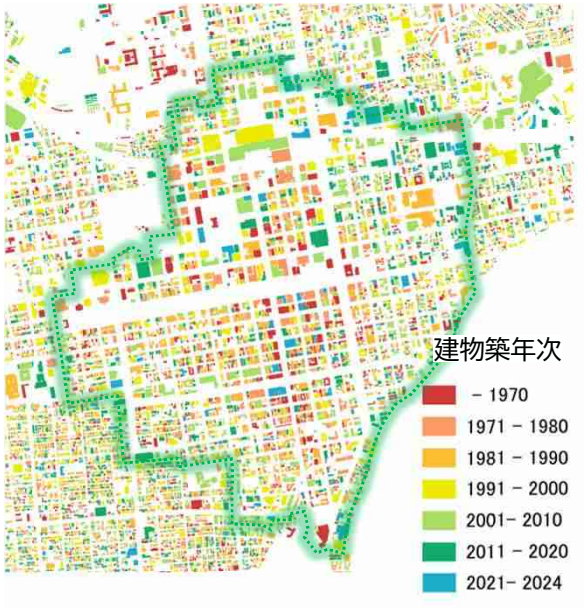
一時滞在施設への電力・熱の供給(創世スクエア)

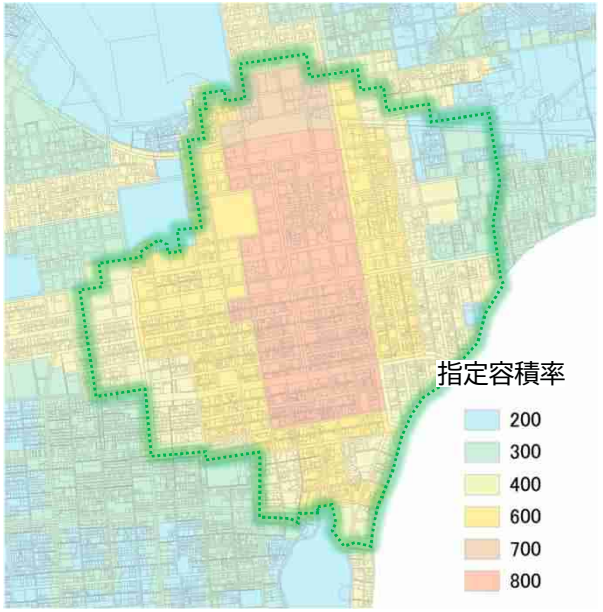
6/30　検討会　提示資料

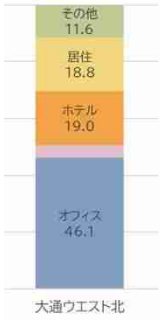
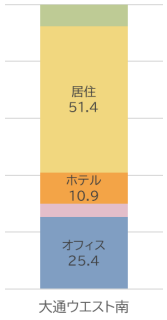
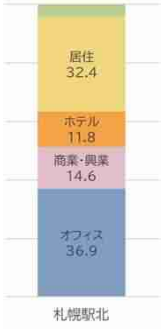
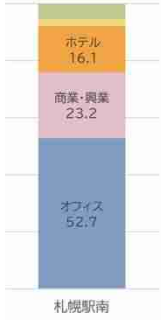
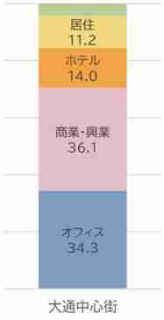
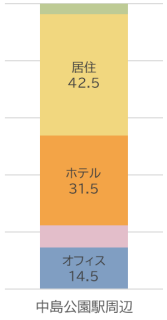
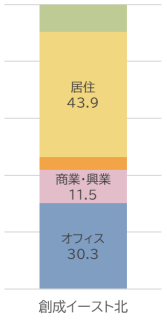
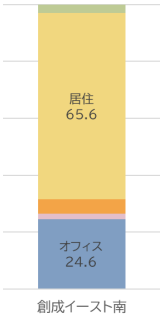
○都心の主要用途別延床面積割合

データ分析・精査中





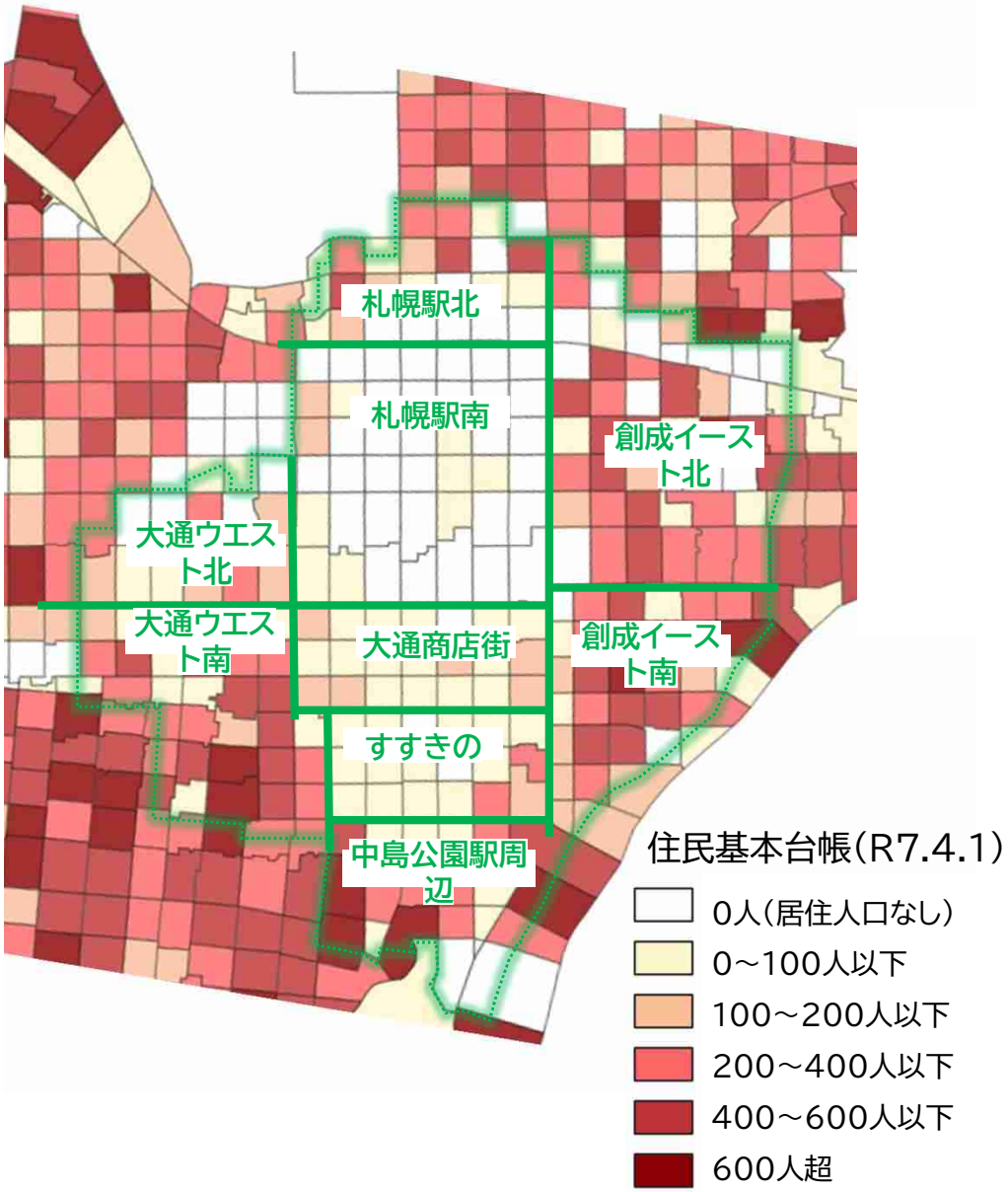


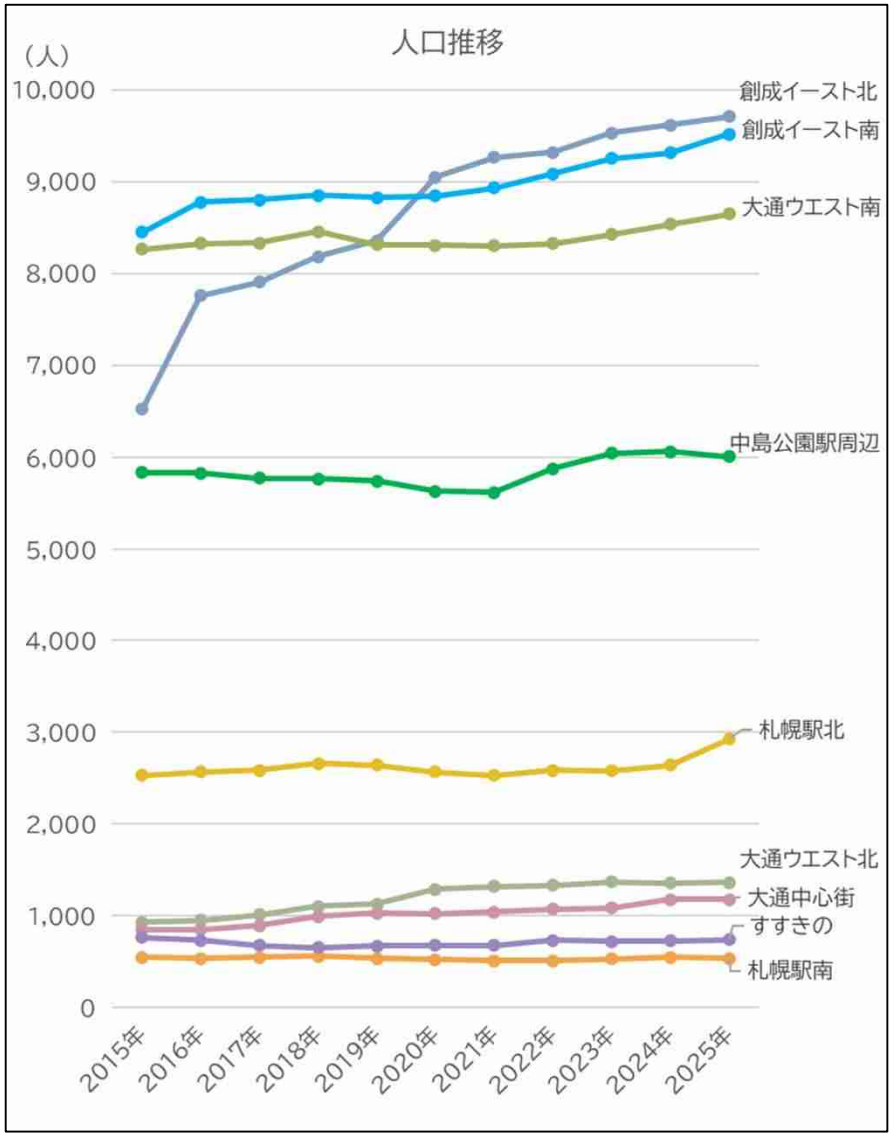
大通ウエスト北	大通ウエスト南	札幌駅北	札幌駅南	大通中心街	すすきの	中島公園駅	創成イースト北	創成イースト南
平均容積率 381%	平均容積率 389%	平均容積率 480%	平均容積率 701%	平均容積率 609%	平均容積率 542%	平均容積率 365%	平均容積率 304%	平均容積率 344%
旧耐震建物割合 27.5%	旧耐震建物割合 24.0%	旧耐震建物割合 22.6%	旧耐震建物割合 35.0%	旧耐震建物割合 36.3%	旧耐震建物割合 46.9%	旧耐震建物割合 34.2%	旧耐震建物割合 24.3%	旧耐震建物割合 29.3%
								

6/30　検討会　提示資料

○都心の居住の動向

データ分析・精査中





社会環境の変化

・人口減少局面へ突入
・少子高齢化の更なる進行
・都心、および周辺地域の人口増加

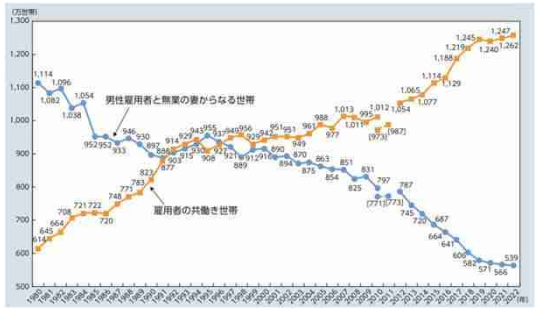
経済環境の変化

・人手不足による女性、高齢者の就業ニーズの高まり
・外国人労働者の増加
・建設コストの急激な高騰（人手不足、資材高騰）

出典：「令和6年3月から適用する公共工事設計労務単価について（国土交通省）」

ライフスタイル・価値観の多様化

・新たな価値観・行動様式（「共有・共用」（シェアリング）意識の高まり、共働き世帯の増加、など）
・消費行動の多様化（eコマース、コト消費の増加、など）



出典：令和5年版　厚生労働白書（厚生労働省）」

自然環境の変化

・気候変動による自然災害の頻発化・激甚化
・脱炭素化推進の要請（2050年カーボンニュートラル実現目標の設定、GX2040ビジョン制定、木材利用促進法改正、エネルギー評価の転換の動き等）

将来の交通環境の変化

・北海道新幹線札幌延伸
・新たなバスターミナルや都心アクセス道路の整備
・新たな公共交通システムの導入

出典：総合交通政策調査特別委員会　資料3（R6）

デジタル革新の加速

・情報化社会の進展
・世界水準のデジタル社会実現の要請

出典：令和5年版　情報通信白書（総務省）」

第2次都心まちづくり計画策定後、札幌都心のまちづくりや人々に影響を与えた主なできごと

胆振東部地震・ブラックアウト（2018年）
（災害リスク低減・都市の強靭化に対する認識拡大など）

新型コロナウイルス感染症（2019年～）
（デジタル化の必要性、地方移住への関心の高まり、消費行動の多様化など）

まちづくりに係る環境変化
（オリパラ招致活動の停止、北海道新幹線札幌延伸の延期、建設コストの高騰など）

現行計画のふりかえり
社会経済情勢の変化
検討会・各部会の意見
市民・来街者の意向

これからの都心まちづくりの課題

- GXの取組等を踏まえた更なる高次機能集積が必要
- 観光やビジネスを含め多様な目的で訪れる人々の受入環境の充実が必要
- 魅力的なストリートを増やし回遊性を高めることが必要
- 公共交通や物流など様々な交通機能の維持・向上が必要
- パブリックスペースの更なる充実と柔軟な活用が必要
- 様々な技術革新を取り込みCO2排出量を更に削減することが必要
- 気候変動による災害リスクの高まりへの対応が必要
- 確実な進捗管理と機動的な見直しを行うことが必要

これら変化する環境に柔軟かつ機動的に対応し、次代につながる都心のまちづくりを着実に進めることが必要

序章　計画策定の背景　・・・・・・・・・・・・・・・・P.９～10

第１章　計画の目的と位置付け・・・・・・・・・・・・・P.11～12

第２章　現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.13～18

第３章　理念・目標と都心の構造・・・・・・・・・・・P.19～28

第４章　取組の方向・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.29～72

第５章　重点的に進める取組・・・・・・・・・・・・・・P.73～81

第６章　取組の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・P.82～84

3.1　都心まちづくりの理念と目標　(1)都心まちづくりの理念

✓ これまでの計画では、『世界目線』・『市民目線』の2つ視点で都心のまちづくりを進めてきました。
✓ 本計画でも考え方は踏襲しますが、より明快で共有しやすいフレーズに再整理し、理念として以下の通り設定します。

第1次都心まちづくり計画

- 世界都市さっぽろをつくる
- これからの時代の生活・文化をつくる

第2次都心まちづくり計画

- 国内外から活力・投資を呼び込む札幌都心ブランドの確立
- 魅力的な都心のライフスタイル・ワークスタイルの実現

考え方は踏襲しながら、より明快で共有しやすい理念を設定

（仮称）第3次都心まちづくり計画

〈都心まちづくりの理念〉

世界が憧れ、市民が誇れる、札幌・北海道の都心

世界目線

札幌・北海道の魅力を発信し、多くのひと・もの・ことを呼び込み、新たな価値を創出する先導役として、札幌・北海道の成長をけん引していく。

世界が憧れるまちになれば、市民の暮らし方・働き方の質を高める循環を生む。

市民目線

誰もが豊かな時間を過ごせる、札幌都心ならではの暮らし方・働き方を実現する。

市民が誇れるまちになり、それを発信していくことで、より多くのひと・もの・ことを惹きつける循環を生む。

3.1　都心まちづくりの理念と目標　(2)都心まちづくりの目標

✓ 2章に示す背景と課題をふまえ、都心まちづくりの3つの目標を定めます。

背景
（社会経済状況、現行計画ふりかえり、市民･来街者の意向、委員意見等から整理）

- GX金融･資産運用特区の指定
- 都市開発と産業施策を両輪で取り組む視点
- 都心でしかできない消費活動や体験へのニーズ＊
- 都心、および周辺地域の人口増加
- 北海道新幹線札幌延伸
- 外国人市民･観光客の増加
- バリアフリー化が不十分＊

- 都心のみどりが充足していない＊
- ＜これまでの取組＞骨格軸の強化や回遊性の向上
- 路上の駐停車により安全で快適な空間が阻害
- 公共交通の乗降や荷さばきへの配慮
- 気軽に自由に過ごせる場所の需要＊
- ＜これまでの取組＞多様な主体による柔軟な空間活用
- 道路や公園等を活用する社会実験の増加

- 2050年カーボンニュートラル実現目標の設定
- 気候変動による自然災害の頻発化･激甚化
- 胆振東部地震･ブラックアウト
- デジタル革新の加速
- 再エネに由来する水素など新技術の台頭
- ライフスタイルや消費行動の多様化など急速な社会の変化

＊は市民アンケートによる

課題

- GXの取組等を踏まえた更なる高次機能集積が必要
- 観光やビジネスを含め多様な目的で訪れる人々の受入環境の充実が必要
- 魅力的なストリートを増やし回遊性を高めることが必要
- 公共交通や物流など様々な交通機能の維持･向上が必要
- パブリックスペースの更なる充実と柔軟な活用が必要
- 様々な技術革新を取り込みCO2排出量を更に削減することが必要
- 気候変動による災害リスクの高まりへの対応が必要
- 確実な進捗管理と機動的な見直しを行うことが必要

都心まちづくりの目標

目標1
多様なひと･もの･ことが集まり**新たな産業･文化･交流がうまれる都心**

目標2
冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心

目標3
気候風土に即した**先進的な取組により脱炭素化･強靭化が進む都心**

✓「都心まちづくりの理念」の実現に向けた3つの目標を定め、各目標の関連性を意識しながら、札幌・北海道の魅力と活力の先導・発信を目指します。

〈都心まちづくりの理念〉

世界が憧れ、市民が誇れる、札幌・北海道の都心

目標１

多様なひと・もの・ことが集まり新たな産業・文化・交流が生まれる都心

北海道・札幌市の魅力と活力をけん引する高次の都市機能の集積を図り、多くの人が集い交流し、まちの価値を高めていく取組の好循環を展開することで、国際競争力を備えた都心を実現します。

成果指標

都心における純付加価値額

（目標値）R3→R23の3都市平均以上の上昇率
※3都市・・・仙台、広島、福岡

目標２

冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心

春季・夏季・秋季はもとより、積雪のある冬季においても、訪れる人それぞれが安心・快適に過ごせ、交流できる居場所があり、歩きやすく、街にみどりやにぎわい、変化が感じられ、居心地が良く、まち巡りを楽しめる都心を実現します。

成果指標

主要地点における歩行者交通量

（目標値）20,500人／日（R26年度）

「まち歩きが楽しめる通りや場所が多い」と評価している人の割合

（目標値）70.0%（R26年度）

目標３

気候風土に即した先進的な取組により脱炭素化・強靭化が進む都心

札幌特有の気候や地域特性に応じたまちづくりとエネルギー施策の一体的な取組の展開により、将来に渡り発展し続けるとともに安全・安心な都市活動を支え、世界から信頼される持続可能な都心を実現します。

成果指標

2050年のCO2排出量

（目標値）**実質ゼロ**
≪2013年度比で100%削減≫

6/30　検討会　提示資料

目標１　多様なひと・もの・ことが集まり新たな産業・文化・交流が生まれる都心

北海道・札幌市の魅力と活力をけん引する高次の都市機能の集積を図り、多くの人が集い交流し、まちの価値を高めていく取組の好循環を展開することで、国際競争力を備えた都心を実現します。

成果指標	都心における純付加価値額

目標値	R3→R23の3都市平均以上の上昇率 （例）R3→R23 3都市平均30%上昇の場合⇒札幌都心：30%以上の上昇

- 新たに生まれた価値を定量的に示す指標として、企業等の生産活動によって**新たに生み出された価値**を示す「純付加価値額」を設定。
- 都心の範囲での計測が可能であり、全国一律のデータを活用することで、他都市の都心との比較が可能。
- 札幌と経済規模が比較的同程度で、地方の中心都市という共通点がある3都市と比較。

純付加価値額現況値　※経済センサス-活動調査より算出　（億円）

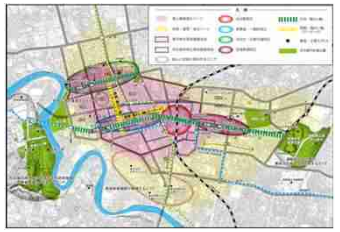
	H24	H28	R3
①札幌都心	10,491	11,659	12,538
札幌全市	31,973	39,099	41,708
②仙台都心	10,917	12,802	12,367
③広島都心	7,249	8,157	8,372
④福岡都心	17,864	21,335	22,015
②～④平均	12,010	14,098	14,251
東京23区	497,576	548,613	1,056,581
全国（※）	1,948,762	2,346,742	2,306,014

純付加価値額上昇率

	H24→H28	H28→R3	H24→R3
①札幌都心	11%	8%	20%
札幌全市	22%	7%	30%
②仙台都心	17%	▲3%	13%
③広島都心	13%	3%	15%
④福岡都心	19%	3%	23%
②～④平均	17%	1%	19%
東京23区	10%	93%	112%
全国（※）	20%	▲2%	18%

（※）東京23区を除く

【仙台都心】



【広島都心】

【福岡都心】

目標２　冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心

「春季・夏季・秋季はもとより、積雪のある冬季においても、訪れる人それぞれが安心・快適に過ごせ、交流できる居場所があり、歩きやすく、街にみどりやにぎわい、変化が感じられ、居心地が良く、まち巡りを楽しめる都心」

成果指標	主要地点における歩行者交通量の平均値
目標値	20,500人／日（R26年度）

【考え方】
・人口減少（2025：約197万人→2045年：約179万人の約9%減少）が予想される中でも、来街者の総量の増加を目指す。
・「18,800人／日（現況値）×91%（人口減）×120%（来街者の増加目標）＝**約20,500人／日**」を目標値とする。

年度	歩行者交通量（人／日）
H29（2017）	約17,500
H30（2018）	約17,000
R1（2019）	約17,300
R2（2020）	約13,600
R3（2021）	約11,900
R4（2022）	約14,300
R5（2023）	約17,500
R6（2024）	約18,800

成果指標	「まち歩きが楽しめる通りや場所が多い」と評価している人の割合
目標値	70.0%（R26年度）

【考え方】
・他都市の類似の指標と比べると現況値が比較的高い数値であることを踏まえつつ、他都市のウォーカブルに関する評価事例を参考として、60.6%（現況値）から約10%増の**70.0%**を目標値とする。

年度	評価している人の割合（%）
R3（2021）	57.2
R4（2022）	52.3
R5（2023）	58.3
R6（2024）	60.6

目 標 3　気候風土に即した先進的な取組により脱炭素化･強靭化が進む都心

まちづくりとエネルギー施策の一体的な取組の展開により、将来に渡り発展し続けるとともに安全･安心な都市活動を支え、世界から信頼される持続可能な都心を実現します。

成果指標（目標値）	**2050年のCO2排出量実質ゼロ** ≪2013年度比で100%削減≫

論 点 1　＜成果指標とは別にモニタリングを行う指標(案)＞

評価の視点		指標
①脱炭素化の推進	CO2排出量	建物の延べ面積、エネルギー使用量
	徹底した省エネ	BEI値、ZEB化・ZEH化された建物数、BEMSの導入件数
	エネルギーの面的利用	熱供給を受けている建物の延べ面積
	再生可能エネルギー利用	再エネ設備の導入量
	オフセット	オフセット導入量
②強靭化の推進	災害時における市民等の安全確保	旧耐震基準の建物の数、一時滞在施設の収容人数、防災備蓄倉庫の整備数
	経済活動の維持	72時間以上稼働可能な非常用電源（CGS、非常用発電設備）の導入件数

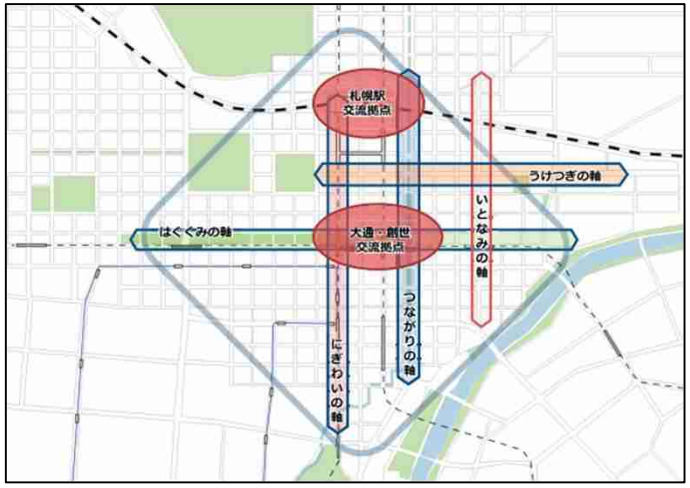
- モニタリング指標は中期アクションプログラムに位置付け。
- データの収集に当たっては、民間ビル事業者へのアンケート調査や「E!まち制度」における運用実績報告を活用することを想定。
- エリア、建物用途等ごとに把握、分析していくことを想定。

都心におけるCO2排出量の推移と数値目標との比較

3.2　都心の構造　(1)『第2次都心まちづくり計画』の取組・成果

✓ これまでの都心まちづくり計画では、まちづくりを進めるうえで拠り所となる要素として、骨格構造とターゲット・エリアを設定してきました。

①　骨格構造(4骨格軸・1展開軸・2交流拠点)



「骨格軸」
　特有の役割や歴史的価値を持った4つの軸を都心まちづくりの基軸として設定

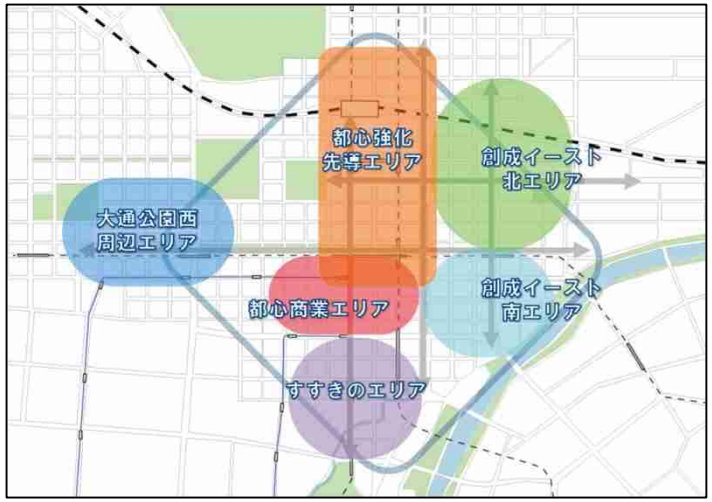
「展開軸」
　創成川以東を含めたまちづくりを展開するため、東4丁目通(いとなみの軸)を設定

「2交流拠点」
　交通結節点・骨格軸の交点を都心全体のまちづくりを先導する拠点として設定

総括・課題認識

- <u>にぎわいの軸</u>は沿道の建替え更新が進み、エリアマネジメント主体の空間形成と活用が図られている
- <u>はぐくみの軸及び大通・創世交流拠点</u>は、次期計画期間でのまちづくりの展開が期待される
- <u>いとなみの軸</u>は道路整備や沿道の民間開発が進められている

②　ターゲット・エリア



骨格軸・交流拠点の形成を戦略的に展開するために、これらと連動して面的な広がりでまちづくりを展開すべき地区を「ターゲット・エリア」として位置づけ

総括・課題認識

- <u>都心強化先導エリア</u>、<u>都心商業エリア</u>は、まちづくり会社を中心に開発機運を活かした地区ごとのまちづくりルールが策定され、面的なまちづくりが展開している
- <u>その他のエリア</u>では、個別の開発機運の高まりに対し、面的な広がりの中で関係者の連携を図る必要がある
- ターゲット・エリアとしての<u>位置づけがないエリア</u>における誘導方針が明確でない

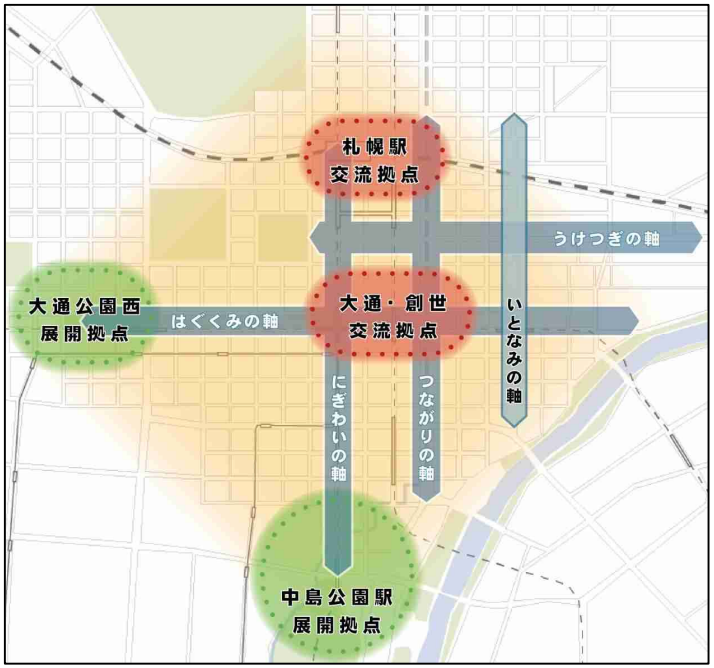
①骨格構造…都心まちづくりを牽引する中核的な軸と拠点

【軸】　4骨格軸-1展開軸を継承

○先導的な取組をさらに推進し、周辺街区への面的な波及、地区間の連続性を高める基軸として、現行計画を継承。

【拠点】　2交流拠点＋2展開拠点の設定

○現行計画の2つの交流拠点は、都心全体のまちづくりを先導する取組を推進するため、引き続き設定。
○都心及び骨格軸の西端と南端にあたる2拠点は、地域特性を活かしたまちづくりを重点的に展開していく必要があり、新たな活動･交流を育む「展開拠点」として追加。



【図】都心の骨格構造（案）

【軸と拠点の目指す方向】

骨格軸	にぎわいの軸（駅前通）	札幌の目抜き通りとして、都心の回遊性をけん引し、にぎわいをつなぐ軸
	はぐくみの軸（大通）	大通公園と沿道が一体となり、札幌都心の象徴性を高め、新たな価値をはぐくむ軸
	つながりの軸（創成川通）	広域から都心へのアクセスを支えながら、東西のまちのつながりを生む軸
	うけつぎの軸（北３条通）	東西の回遊を促す、歴史や文化の魅力あふれる街並みをうけつぐ軸
展開軸	いとなみの軸（東４丁目線）	交流と活気にあふれる沿道から職・住・遊のいとなみを感じる軸
交流拠点	札幌駅交流拠点	広域的な交通網が結節する札幌の玄関口として国際競争力を先導する拠点
	大通・創世交流拠点	はぐくんできた価値と新しい価値が融合した世界に誇れる価値を創造する象徴的な拠点
展開拠点	大通公園西展開拠点	都心西側の回遊拠点を形成し、美しいみどりや歴史・文化芸術を生かした多様な交流をはぐくむ拠点
	中島公園駅展開拠点	地域に培われた歴史・文化と新たな集客・交流機能が調和した都心南端の拠点

②エネルギー施策のエリア区分…地域特性に応じたエネルギー施策を進めるエリア

✓ 土地利用やエネルギー利用の状況から得られた以下の視点を踏まえ設定します。

- ➢ 札幌駅周辺から大通周辺にかけては今後も高度な土地利用が想定される
- ➢ 創成東地区（大通以北）において建替更新が増加傾向
- ➢ 都市再生の動向と連動した施策展開が必要
- ➢ 札幌駅北口から国道36号線にかけてＣＯ２排出量が多い
- ➢ エネルギーネットワークインフラの活用

エリア区分

脱炭素化・強靭化先導エリア

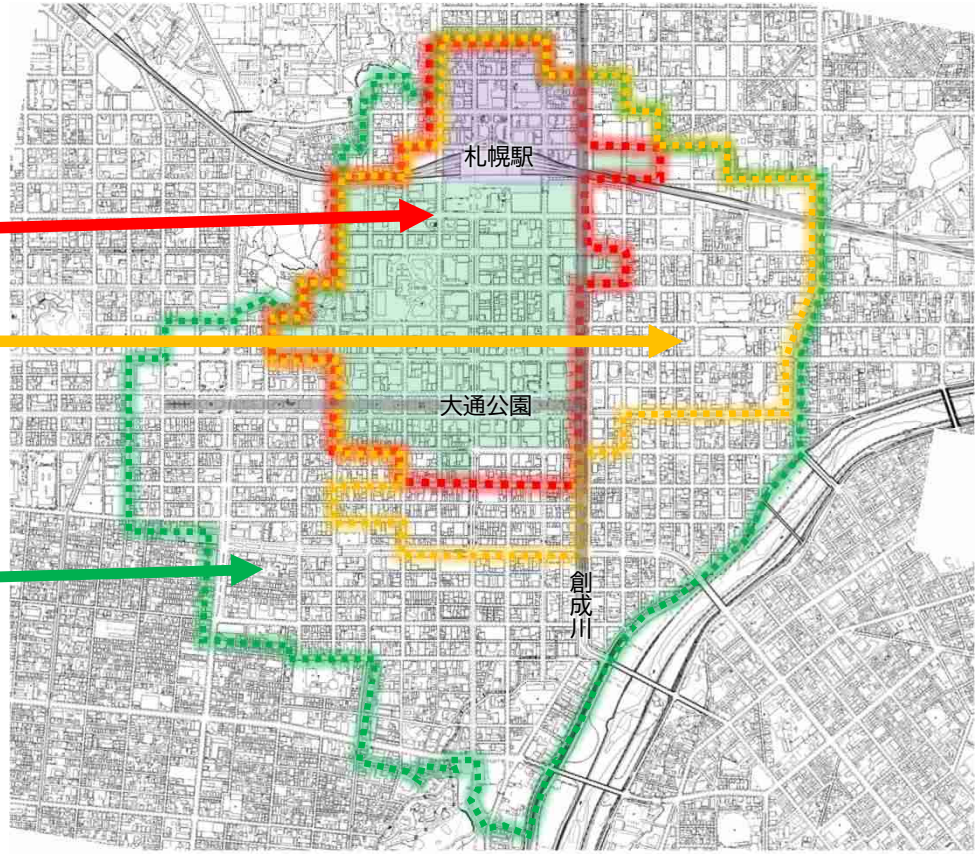
既存のエネルギーネットワークインフラの積極的な活用による脱炭素化の実現と強靭性の確保により、世界から信頼される持続可能な都心に向けた取組を先導するエリア

脱炭素化推進エリア

建物の更新や面的な開発の機会を捉え、最適な手法の組み合わせにより脱炭素化を推進するエリア

進捗管理区域

小規模な建物や既存の建物も含めて脱炭素化を促進するために、都心のエネルギー利用について進捗管理を行う区域



:熱供給エリア(札幌エネルギー供給公社)
:熱供給エリア(北海道熱供給公社)

序章　計画策定の背景　・・・・・・・・・・・・・・・・P.９～10

第１章　計画の目的と位置付け・・・・・・・・・・・・・P.11～12

第２章　現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.13～18

第３章　理念・目標と都心の構造・・・・・・・・・・・・P.19～28

第４章　取組の方向・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.29～72
4.1　目標の実現に向けた取組の方向　・・・・・P.29～63
4.2　都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向　P.64～72

第５章　重点的に進める取組・・・・・・・・・・・・・・P.73～81

第６章　取組の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.82～84

4.1　目標の実現に向けた取組の方向

目標1　多様なひと・もの・ことが集まり新たな産業・文化・交流が生まれる都心

基本方針 1-1　多くの人を呼び込む「高次都市機能の集積」

1-1-1　アジア・世界に誇れる先進的なビジネス環境の形成
1-1-2　北海道観光の玄関口にふさわしい機能の集積
1-1-3　多様な消費活動や体験が広がる場と機会の充実
1-1-4　地域特性に応じた機能の誘導

基本方針 1-2　札幌らしい「都市ブランド力の強化」

1-2-1　エリアの魅力や個性の発揮
1-2-2　誰もが快適に過ごせる環境の整備
1-2-3　みどりのうるおいと木のぬくもりを感じられるまちの形成
1-2-4　札幌らしさが際立つ魅力的な景観の形成

基本方針 1-3　「シティプロモーションの強化」

1-3-1　都心の魅力や価値を国内外に届けるシティプロモーションの強化

目標2　冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心

基本方針 2-1　札幌都心ならではの「魅力的なストリートの形成」

2-1-1　格子状の街路網の特徴を生かした、ストリートの魅力や個性の創出
2-1-2　選択性が高く、多様性に富み、みどり豊かな、回遊したくなるストリートの形成
2-1-3　積雪寒冷地ならではの屋外空間における魅力的な景観形成や賑わいの創出

基本方針 2-2　都心のまちづくりを支える「機能的な交通環境の構築」

2-2-1　都心に必要な交通機能やアクセス環境の確保
2-2-2　四季を通じて快適に移動できる環境の充実

基本方針 2-3　多様な活動や交通環境を充実させる「戦略的なマネジメント」

2-3-1　パブリックスペースにおける多様な活動や魅力的なコンテンツの創出による賑わい・交流の促進
2-3-2　雪という札幌の個性を活かした、パブリックスペースの冬の利活用の促進
2-3-3　限られた道路空間の運用の全体最適化
2-3-4　関連分野と連携した取組

目標3　気候風土に即した先進的な脱炭素化・強靭化の取組が進む都心

基本方針 3-1　最適な手法の組み合わせによる脱炭素化の推進

3-1-1　建替更新・改修時の徹底した省エネ化の推進
3-1-2　エネルギーの面的利用の更なる拡大と効率化
3-1-3　先進技術を活用した再生可能エネルギーの導入

基本方針 3-2　雪や寒さにも負けない、安全・安心で強靭な都心の構築

3-2-1　災害時における市民、来街者、ワーカーの安全確保
3-2-2　経済活動を維持するための備えの充実
3-2-3　多様な主体による防災に向けた取組の促進

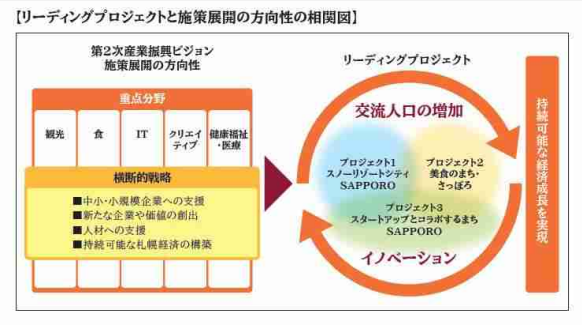
基本方針 3.3　先進的な取組の誘導と適切な進捗管理

3-3-1　建物の特性に応じた効果的な取組誘導
3-3-2　着実に脱炭素化を推進するための実績評価

4.1　目標の実現に向けた取組の方向

目標1
多様なひと・もの・ことが集まり、新たな産業・文化・交流が生まれる都心

＜参考＞第2次札幌市産業振興ビジョン



産業振興ビジョンでは、国内外への発信力を持つ「観光」・「食」を交流人口増加の呼び水とし、「スタートアップ」の革新的な技術や発想を基に、イノベーションを創出するエンジンとして相乗効果を生みながら産業振興を図ることを目指しています。

特に都心は、ビジネス環境の優位性による業務集積、観光・食の中心地として経済活力をけん引することが求められます。都心まちづくり計画では、まずその機能集積を重視するとともに、人が多く集まることを生かし、イノベーションが起こりやすい環境、交流を促す快適環境を充実させていくことを目指します。

基本方針

1-1　多くの人を呼び込む「高次都市機能の集積」

国内外からビジネスパーソンや観光客が訪れたくなり、市民にとっては働く場としても出かけたくなる場としても魅力的に感じる都心であるために、都市機能の集積・高度化を図ります。
建物の更新を適切にとらえ、投資を呼び込み、経済をけん引する国際的な活動の拠点にふさわしい市街地を形成します。

1-2　札幌らしい「都市のブランド力の強化」

エリアマネジメントの推進により都心の各エリアが個性を磨き、みどりや雪を活かした景観や誰もが快適に過ごせる環境を整えていくことで、世界が憧れ市民が誇れる「札幌らしさ」を醸成していきます。

1-3　シティプロモーションの強化

都心まちづくりの取組を共有し浸透を図り、多様な主体が一体となり都心の魅力や価値を発信することに注力します。
共感した市民や来街者が発信することを促し、さらに人や投資を呼び込んでいく好循環が生まれることを目指します。

基本方針1-1　多くの人を呼び込む「高次都市機能の集積」

1 - 1 - 1　アジア・世界に誇れる先進的なビジネス環境の形成

取組の方向

◆ 札幌・北海道の経済をけん引する企業の集積

（取組例）

- GX産業の集積を見据えた金融機能集積・強化（資産運用会社の誘致等）
- BCP適地の強みを生かした国内外の本社機能の誘致
- 世界水準の高機能オフィスの整備

◆ ワーカーの更なる活躍を引き出すビジネス環境の整備

（取組例）

- 多様で豊かな働き方を促すワークスペースの充実
- 企業や人材の交流を促す場・機会の創出
- スタートアップによる実証実験等の受入環境の充実
- 誰もが気軽に利用できるパブリックスペースの充実
- ウェルビーイング向上に資する環境の充実

【参考イメージ】高機能オフィス

札幌市企業誘致スローガン・ロゴ「大札新」

市役所12階スタートアップ交流拠点「社交場ヤング」

「GX 金融･資産運用特区」を通じて北海道･札幌が目指す姿

出典：Team Sapporo-Hokkaido　HP

基本方針1-1　多くの人を呼び込む「高次都市機能の集積」

1-1-2　北海道観光の玄関口にふさわしい機能の集積

取組の方向

◆ 多様な交通アクセスの充実・交通結節点の強化
（取組例）
- 新幹線の延伸を契機とした交通結節点としての機能強化
- 多様な交通モードでのアクセスを支える環境整備

◆ 多様な層を受け入れる滞在環境の充実
（取組例）
- 富裕層を受け入れる世界水準のハイグレードホテルの整備

◆ MICEの推進
（取組例）
- 継続的なMICEの誘致
- 既存資源を活かしたアフターコンベンションプランの充実

◆ 札幌ならではの付加価値の高い観光コンテンツの提供
（取組例）
- 歴史や文化財、食、自然などの既存資源を活かした観光コンテンツの創出

◆観光客の受入機能の強化
（取組例）
- 観光案内所の機能強化
- 手荷物預かり、手荷物配送の機能強化

【参考イメージ】
JR北海道　H5系（JR北海道　提供）

【参考イメージ】すすきの夜間観光

【参考イメージ】
北三条広場（アカプラ）のスケートリンク

【参考イメージ】ハイグレードホテル

基本方針1-1　多くの人を呼び込む「高次都市機能の集積」

1 - 1 - 3　多様な消費活動や体験が広がる場と機会の充実

取組の方向

◆ 多くの人をひきつける機能の集積
（取組例）
- 飲食・買い物・娯楽など商業機能の集積
- 文化芸術、エンタメなど多様な集客交流施設の充実
- 多様な使い方ができるパブリックスペースの充実

◆ 豊かな時間消費を支える場と機会の充実
（取組例）
- 文化芸術・スポーツ・エンタメなど多様なイベントの誘致
- パブリックスペースの柔軟な活用

【参考イメージ】狸小路商店街

【参考イメージ】札幌駅

【参考イメージ】
札幌文化芸術劇場hitaru

【参考イメージ】
大通公園･さっぽろライラックまつり

【参考イメージ】
大通公園･ブラックスライドマントラ

【参考イメージ】
札幌駅前通地下歩行空間(チ･カ･ホ)

基本方針1-1　多くの人を呼び込む「高次都市機能の集積」

1 - 1 - 4　地域特性に応じた機能の誘導

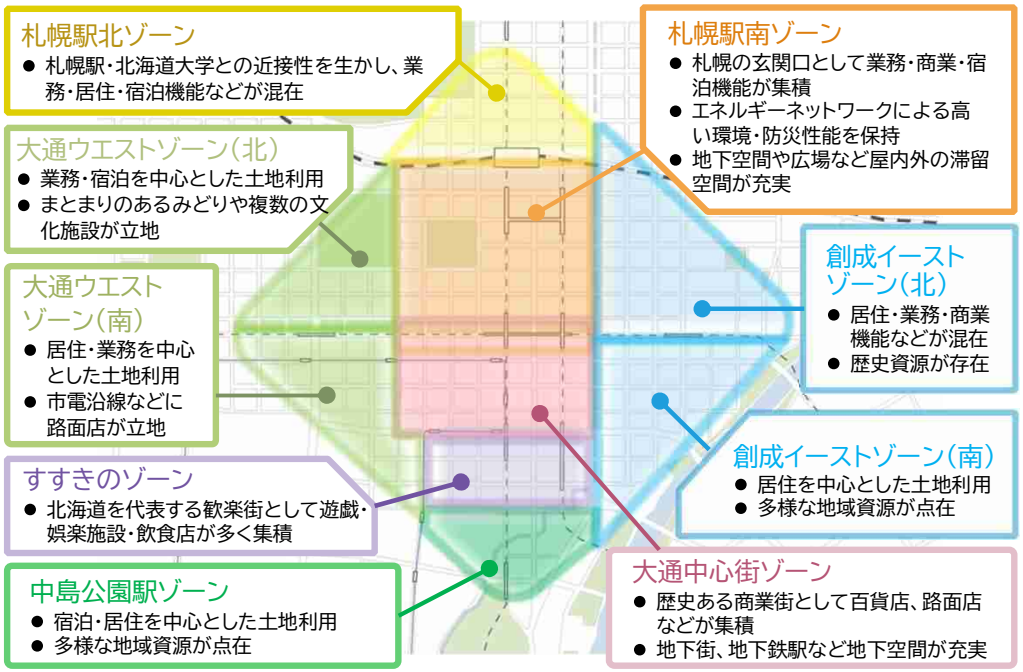
取組の方向

◆ 地域特性やまちづくりの動向をふまえた機能の誘導

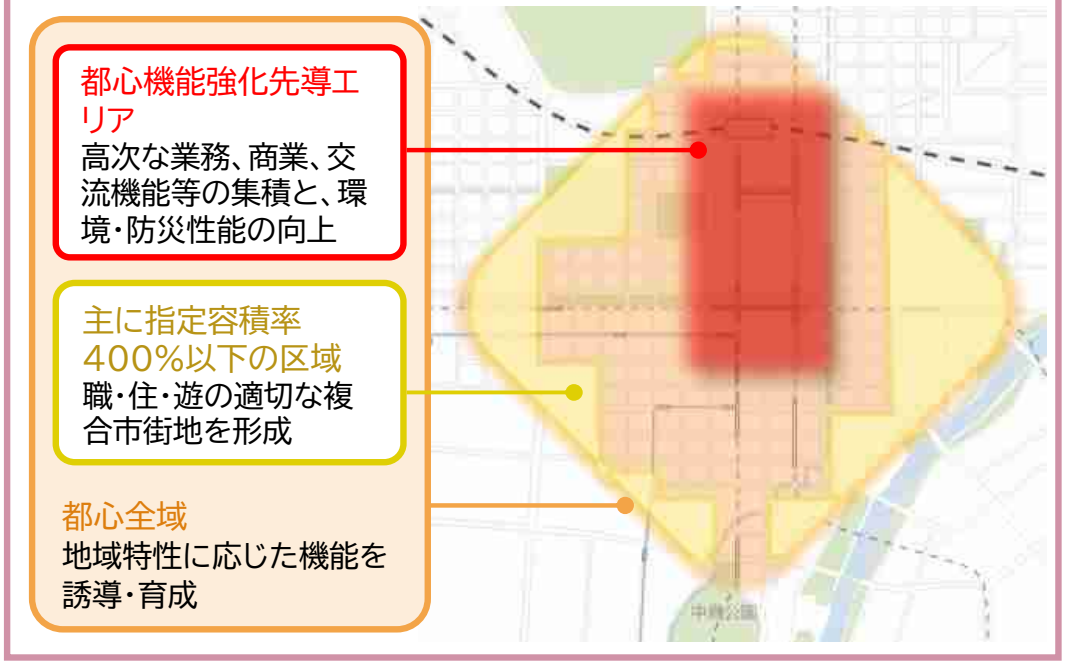
（取組例）

- 各地域の特性（まちづくりゾーン*等）に応じた機能を誘導・育成（業務・商業・集客交流・宿泊・教育・居住・生活利便等）
- 居住機能に関するエリア別の誘導方針の検討
- エリア別のまちづくりガイドライン策定
- 建替や既存建物の改修等を促す方策の導入

＜まちづくりゾーン(案)＞



＜地域別の機能誘導方針（案）＞　※ まちづくりゾーンを踏まえた誘導方針として設定



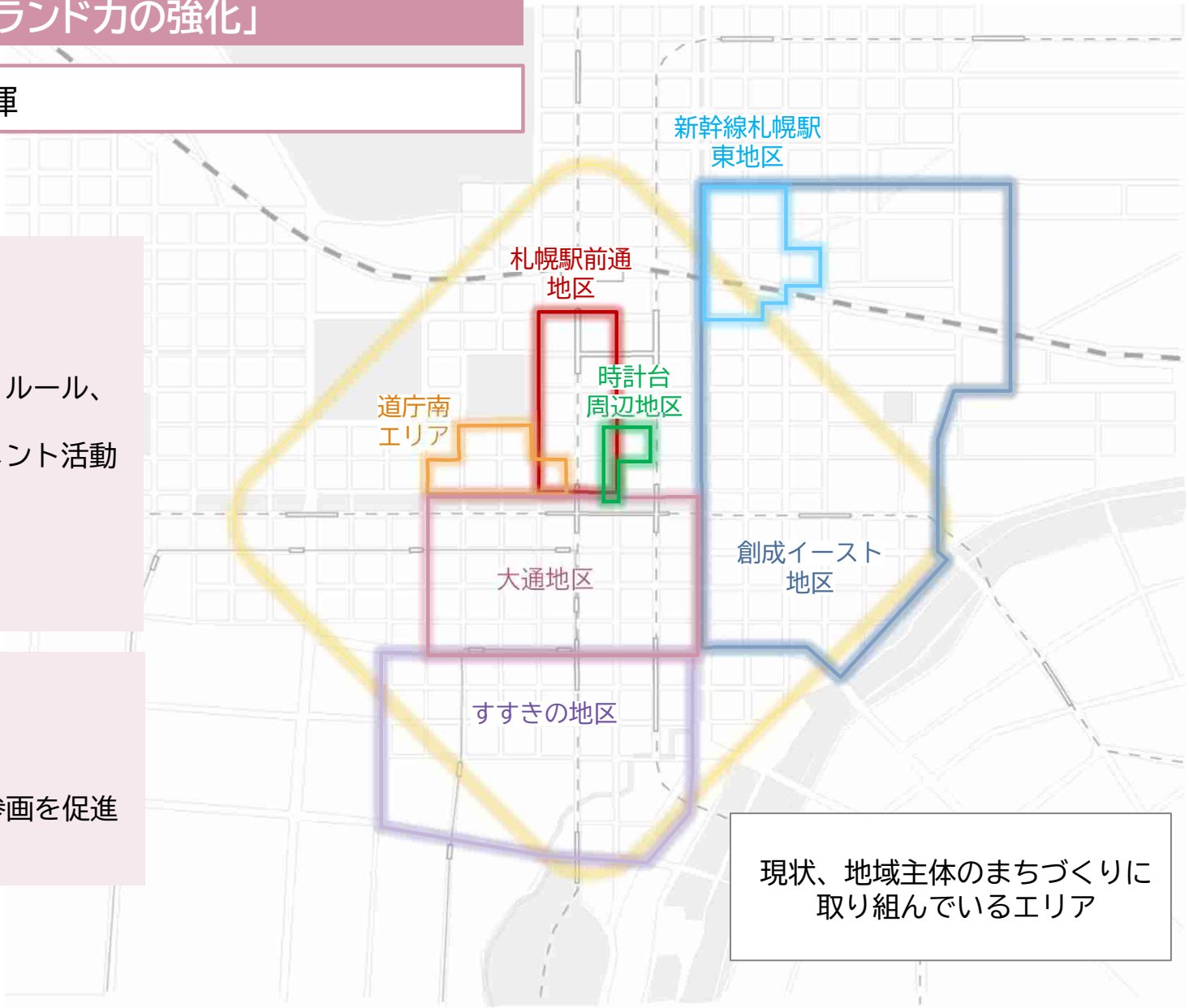
基本方針1-2　札幌らしい「都市ブランド力の強化」

1 - 2 - 1　エリアの魅力や個性の発揮

取組の方向

◆ 地域主体の地区まちづくりの推進
（取組例）
- エリアごとの将来像、地区まちづくりルール、ガイドライン等の検討・共有
- エリアのブランド力を高めるマネジメント活動の推進（公共的空間の利活用など）
- 新たな地区まちづくりの機運醸成
- エリア間連携の促進

◆ まちへの愛着の醸成
（取組例）
- 若者など多様な人のまちづくりへの参画を促進



基本方針1-2　札幌らしい「都市ブランド力の強化」

1 - 2 - 2　誰もが快適に過ごせる環境の整備

取組の方向

◆ 誰もが利用しやすい環境の整備
（取組例）
- 歩行空間・公園・公共施設・民間施設などのバリアフリー化及びユニバーサルデザインの導入促進
- 子どもと共に訪れ滞在しやすい環境の整備

◆ 多言語に対応したわかりやすい案内の充実、情報発信の強化
（取組例）
- 案内サイン、誘導サインの多言語化
- ピクトグラムの積極的活用
- 統一感を持たせたデザインの検討

◆ 安心して訪れることができる環境の整備
（取組例）
- 客引き防止などの取組みの推進

札幌市『ユニバーサル展開プログラム』

【参考イメージ】エレベーターの新設
（札幌市　札幌市バリアフリー基本構想）

【参考イメージ】見やすさに配慮した案内板の例(札幌市　福祉のまちづくり醸成施設整備ガイドブック)

基本方針1-2　札幌らしい「都市ブランド力の強化」

1 - 2 - 3　みどりのうるおいと木のぬくもりを感じられるまちの形成

取組の方向

◆ 多面的な機能をもつ都市緑化の促進

（取組例）

- 公園・街路樹など公共的なみどりの充実・強化
- 民有地における魅力的な屋内外のみどり空間の創出
- 自然環境が有する多様な機能（グリーンインフラ）の活用
- まちへの愛着を育むみどりの維持管理活動の展開

◆ 建築物等における道産木材利用の促進

（取組例）

- 建築物における道産木材の利用促進
- パブリックスペースにおける内装材・ベンチ等への道産木材の利用促進

みどりの機能

・気候変動対応、生物多様性確保、幸福度（Well-being）の向上等の課題解決に向けて、緑地が持つ機能に対する期待が高まっています。

・札幌市みどりの基本計画では、みどりの機能を発揮する「自然」「都市」「ひと」の3つの対象ごとに整理しています。

自然
①自然環境の保全
②地球環境問題への対応

【参考イメージ】緑陰のある通り

都市
③都市環境の形成
④防災機能の発揮
⑤観光まちづくり・地域経済への寄与

【参考イメージ】
建物と調和した並木

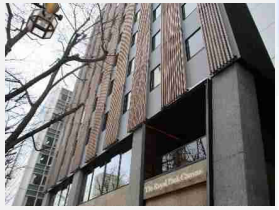
ひと
⑥さまざまな世代が利用できる場の提供
⑦コミュニティの形成

【参考イメージ】
大通公園のイベント

木材利用の効果　（参考：林野庁資料）

・木材の建築物への利用は、建築物のエンボディドカーボン（建物やインフラ　の建設や改修に際して排出される温室効果ガス量）の削減に寄与するとともに、「伐って、使って、植えて、育てる」という資源の循環利用の促進につながる、カーボンニュートラルに向けて有効な取組です。

・また、木材を利用した空間は、人々の心地よさを高める効果や滞在時間を長くする効果、企業価値の向上など、カーボンニュートラルだけでなく多様な効果も期待されます。



【参考イメージ】
木材を活用した建物
（ザ ロイヤルパーク
キャンバス札幌大通公園）

【参考イメージ】資源の循環サイクル
（札幌市　森づくり基本方針）

【参考イメージ】
木のベンチを配置した
屋内広場
（D-LIFEPLACE札幌）

基本方針1-2　札幌らしい「都市ブランド力の強化」

1 - 2 - 4　札幌らしさが際立つ魅力的な景観の形成

取組の方向

◆ 都心の先進性の中にも歴史やみどりを感じる景観形成の推進

（取組例）
- 歴史資源や通りごとの特徴を活かした景観の形成
- 通りごとの特徴を活かしたみどりのネットワークの強化

【参考イメージ】札幌駅前通の夜間景観

【参考イメージ】北3条広場（アカプラ）

◆ 季節や時間ごとに異なる表情やにぎわいを感じる景観形成の推進

（取組例）
- 夜間照明や雪を活かした景観の形成
- 誰もが気軽に利用できるパブリックスペースの充実と利活用の促進
- 沿道と道路を一体的に捉えた空間のデザイン（沿道建物低層階のガラス張り化など）
- 沿道の路面店等による道路空間の一体的な利用（オープンカフェ、緑化など）

【参考イメージ】地下歩行空間の活用

【参考イメージ】道路空間の活用
（シャワー通社会実験）

基本方針1-3　シティプロモーションの強化

1 - 3 - 1　都心の魅力や価値を国内外に届けるシティプロモーションの強化

取組の方向

◆ 世界に向けた発信力の向上
（取組例）
- 官民一体による企業誘致スローガン「大札新」を活用した都心のリニューアルのＰＲ
- まちづくり団体・民間事業者等、多様な主体が一体となったシティプロモーションの仕掛けづくり
- 市民・来街者が札幌の魅力を発信したくなる機運の醸成

札幌市企業誘致スローガン・ロゴ「大札新」を活用した市内外でのPR

◆ 都心まちづくりの取組の共有・浸透
（取組例）
- 都心まちづくり計画の効果的な発信・共有
- 官民による取組のＰＲ

「笑顔になれる街」札幌をイメージしたロゴ『SAPP_RO』とテレビ塔

4.1　目標の実現に向けた取組の方向　(2)目標2の実現に向けた取組の方向

目標2
冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心

【基本的な考え方】

Ⅰ　ストリート（※１）における四季を通じた多様な活動の創出

・積雪寒冷地の特性を踏まえつつ、官民が持つ様々なパブリックスペース（公共的空間※２）を一体的に捉え、人と人の出会い、滞留、交流、自己表現などの「多様な活動が生まれる魅力的な空間」に改変するとともに、空間を「柔軟に活用できる仕組み」を構築する。

※１　ストリート：街路のみならず沿道等も含む
※２　パブリックスペース：道路、公園、広場などの公共空間や民間施設（公開空地等）の半公共空間。来街者が自由に出入りできる場所

Ⅱ　様々な活動を支える安全・安心かつ円滑な交通環境の構築

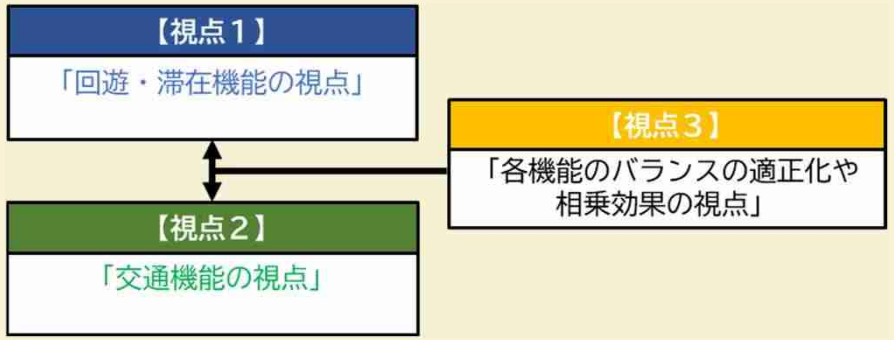
・都心における人やモノの「移動環境」、人々の乗降や荷さばきなどの沿道への「アクセス環境」の向上を図り、空間を「効果的・効率的に運用できる仕組み」を構築する。

（全般的な視点）　　（空間形成の視点）

【基本方針】

連動・連携

【空間形成指針】



（具体化）　　（具体化）

【取組の方向、取組例】

【主要検討路線、重点的に検討を進める路線等】

基本方針2-1　札幌都心ならではの「魅力的なストリートの形成」

2 - 1 - 1　格子状の街路網の特徴を生かした、ストリートの魅力や個性の創出

取組の方向

◆ 回遊の基軸となる象徴的なストリートの形成

（取組例）
- 骨格軸などの主要な通りの更なる魅力化
- エリアのまちづくり活動や開発の機運などを踏まえた魅力的なストリートの形成

【参考イメージ】ランブラス通り（バルセロナ市）

◆ 街路と沿道が一体となった魅力的な街路空間の形成

（取組例）
- 既存の沿道状況や建替え等に合わせた街路空間の検討（必要に応じて道路空間再編の検討など）
- 沿道と道路を一体的に捉えた空間のデザイン（沿道建物低層階のガラス張り化など）
- 沿道の路面店等による道路空間の一体的な利用（オープンカフェ、緑化など）

【参考イメージ】サンキタ通り（神戸市）

◆ 見通しの良さを活かした通りの景観形成や交差点における辻空間の魅力の向上（点と線のデザイン）

（取組例）
- 遠景、奥行き感、丁字路のアイストップ等を生かした空間デザインの検討
- エリアや路線の特徴を踏まえた交差点の特徴付け（緑化、ゆとりのある空間など）
- 路線や区間によって変化のある空間形成（沿道も含めた緑化、舗装材等によるデザインの工夫など）

【参考イメージ】北３条広場

基本方針2-１　札幌都心ならではの「魅力的なストリートの形成」

２-１-２　選択性が高く、多様性に富み、みどり豊かな、回遊したくなるストリートの形成

取組の方向

◆ 季節や天候、目的等による選択性が高い、滞在空間や回遊動線の創出

（取組例）
- 屋外環境に左右されにくい屋内や半屋内の滞在空間の創出（地下、公開空地等）
- 公園、道路や民間敷地内におけるみどり豊かな空間の充実
- 界隈性や奥行きを出すための中通りの魅力化や敷地内貫通通路の整備誘導

【参考イメージ】
チ・カ・ホ

【参考イメージ】
モントルグイユ地区（パリ市）

◆ パブリックスペースにおける滞留や交流などの多様な活動ができる空間の創出

（取組例）
- 立ち止まる、座る、食べる、遊ぶ、買い物をする、パフォーマンスをするなどの多様な活動が行える空間の整備

【参考イメージ】大通公園（実証実験）

２-１-３　積雪寒冷地ならではの屋外空間における魅力的な景観形成や賑わいの創出

取組の方向

◆ 積雪期の魅力と賑わいも考慮した札幌都心ならではのストリートの形成

（取組例）
- 公共空間等における冬の魅力的な街並みの創出（雪や光などを活かした空間演出）
- 街並みを眺められる空間の充実（沿道のカフェ、公開空地など）

【参考イメージ】札幌駅前通

基本方針2-２　都心のまちづくりを支える「機能的な交通環境の構築」

２-２-１　都心に必要な交通機能(※1)やアクセス環境(※2)の確保

※1　交通機能：ヒトやモノが移動するための機能（徒歩、自転車、公共交通、乗用車、貨物車等による目的地までの移動。駐車施設等も含む）
※2　アクセス環境：人々の乗降やに荷捌きなどの沿道にアクセスするための機能

取組の方向

◆ 各路線相互の機能分担と各路線における必要な機能の配置

（取組例）
- 各エリアや各路線における必要な機能の配置

◆ 都心を目的地としない通過交通の適切な誘導等

（取組例）
- 交通機能が重視される路線の交通円滑化

◆ 都市活動を支える、荷さばきや人々の乗降などの空間の確保

（取組例）
- 民間開発との連携による交通施設の整備（共同荷さばき場、観光バス乗降場等）
- 路上荷さばき場、バス停、タクシー乗降場、観光バス乗降場・駐車場などの必要な空間の確保
- 荷さばきの効率化に資する取組の誘導（大型施設における館内物流体制の構築、荷さばき規制緩和区間の適正利用促進など）
- 既存の駐車施設の利用分散等による混雑の緩和

基本方針2-２　都心のまちづくりを支える「機能的な交通環境の構築」

２-２-２　四季を通じて快適に移動できる環境の充実

取組の方向

◆ 安全・安心かつ円滑な歩行者動線の充実

（取組例）
- 北海道新幹線札幌延伸を見据えた、駅から都心各所への移動経路の充実
- 歩行者動線の更なるバリアフリー化（官民連携による地下歩行ネットワークの拡充、地上・地下動線の充実など）

【参考イメージ】北８西１地下通路

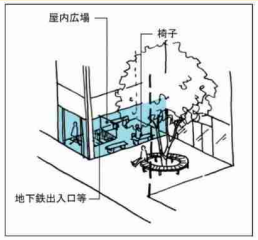
◆ 広域交通結節点と都心内の移動手段との接続の円滑化

（取組例）
- 各交通との接続環境の充実（地下鉄、鉄道（JR）、バス、タクシー、路面電車、新たな公共交通、シェアサイクルなど）
- 情報提供の充実（案内サイン、ICTを活用した情報発信など）

【参考イメージ】シェアサイクルポート

◆ 公共交通などの待合い、休憩環境の充実

（取組例）
- 沿道施設への待合いスペースの整備誘導など
- 移動途中における屋外の暑さや寒さをしのぎ、休憩できる空間の充実（クーリングシェルターなど）



【参考イメージ】屋内広場（札幌市資料）

基本方針2-３　多様な活動や交通環境を充実させる「戦略的なマネジメント」

２-３-１　パブリックスペースにおける多様な活動や魅力的なコンテンツの創出による賑わい・交流の促進

取組の方向

◆ エリアや建物等のコンセプトに合ったパブリックスペースの多様な利活用の促進

（取組例）
- 規制緩和や利活用ルールの明確化（公共空間の占用許可基準の緩和や公開空地活用のルールの明確化の検討、検証のための社会実験の実施など）

【参考イメージ】南１条通社会実験

◆ 柔軟かつ持続可能な利活用を実現する仕組みや体制の構築と情報発信

（取組例）
- まちづくりのプレイヤーの発掘・育成（社会実験等を通じた取組）
- 運営主体の資金確保（収益を得られる仕組みの検討）
- 市内外への積極的な情報発信（機運醸成やプレイヤー発掘の視点）

【参考イメージ】ストリートデザインスクール@札幌
提供：札幌駅前通まちづくり株式会社

２-３-２　雪という札幌の個性を活かした、パブリックスペースの冬の利活用の促進

取組の方向

◆ 冬季の屋外空間や屋内空間の柔軟な利活用

（取組例）
- 歩道に面した屋内や半屋内の広場、地下空間や屋内の公開空地等の利活用の促進
- 屋外の広場や公開空地における、雪を活かした特徴的なイベント実施等の促進

【参考イメージ】
モユクサッポロ（公開空地の活用）

基本方針2-3　多様な活動や交通環境を充実させる「戦略的なマネジメント」

2-3-3　限られた道路空間の運用の全体最適化

取組の方向

◆ **求められる様々なニーズに対する既存道路の利活用の工夫や道路の構築・再編等**

（取組例）
- さっぽろシャワー通り（荷さばきや歩行者のニーズに対応した一事例）

【取組イメージ】
さっぽろシャワー通り

2-3-4　関連分野と連携した取組

取組の方向

◆ **健康（ウェルネス）や脱炭素（エネルギー）施策等への波及**

（取組例）
- 来街者の歩行数増加による健康増進
- 公共交通の利用促進や交通の円滑化等による二酸化炭素排出量の削減　など

【取組イメージ】
南１条通社会実験

4.1　目標の実現に向けた取組の方向　（2）目標2の実現に向けた取組の方向

【イメージパース１：商業エリア、初夏、休日（昼間）のイメージ】
・ゆとりのある歩行者空間や通りに開かれた魅力的な店舗などがあり、通りと沿道が一体となった魅力的なストリートが形成されている。
・訪れる人それぞれが安心・快適に過ごせ、交流できる居場所があり、歩きやすく、街にみどりやにぎわい、変化が感じられ、居心地が良く、まち巡りを楽しめる空間になっている。
・街のにぎわいや人々の回遊など様々な活動を支えるために必要な、公共交通、自転車、荷さばき等の交通機能の空間が確保されている。

木質化や再生エネルギーの利用などの環境に配慮した建物

沿道ビルの公開空地などから、街の風景やにぎわいを感じられる

荷さばきや人々の乗降など複合的な用途として使用可能な空間の確保により、都市活動が円滑に行われている

新たな公共交通を利用することで、都心及び周辺エリアの回遊がしやすい

自転車などの走行空間やシェアサイクルポート（駐輪場）が確保されていて、都心へのアクセスや回遊がしやすい

街路樹はもとより、足元や沿道ビルにも花やみどりがあり、歩いていて楽しい

見通しの良さを活かした奥行きのある空間デザイン

通りに対してにぎわいのある路面店が連続しており、歩いていて楽しい

オーニング（日よけ）や街路樹による緑陰の下で快適に休憩ができる

ガラスの外装やオープンカフェ等により、通りに開かれた店舗が立ち並んでいる

辻空間が魅力的でにぎわいが通りに滲み出ている

歩道や沿道建物がバリアフリーになっており、誰もが移動しやすい

シェアサイクルが充実しており、移動手段の選択性が高い

4.1　目標の実現に向けた取組の方向（2）目標2の実現に向けた取組の方向

【イメージパース２：象徴的な通り、冬、夜、地上・地下のイメージ】
・地上は、来街者が思い思いに雪と触れ合える広場的な空間が充実している。
・雪と光を活かした札幌都心ならではの美しい景観が形成されており、沿道建物からは美しい景観や人々の活動を眺められる。
・地下は、四季を通じて安全・安心かつ円滑に移動ができ、にぎわいが感じられる歩行空間が形成され、天候に左右されず回遊できる。
・その時々の状況や目的に応じて、屋外と屋内（沿道・地下）を行き来できるなど選択性が高い。

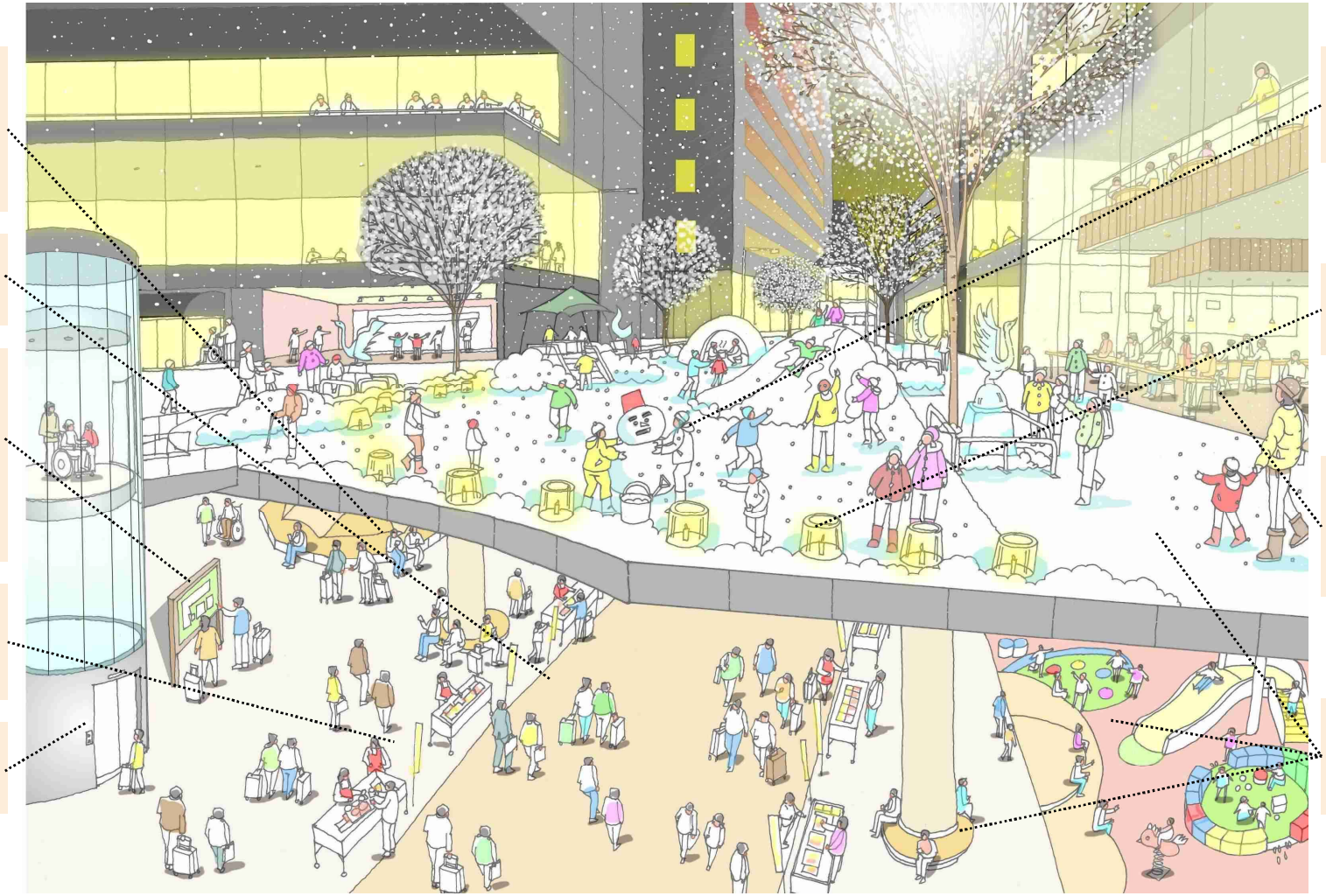
【地下】ベンチ等が設置された滞留空間があり、来街者が暖かい空間で休憩したり、ワーカーが移動の合間にちょっとした仕事などができる

【地下】冬期間においても誰でも安全・安心かつ円滑に移動ができる

【地下】案内表示に掲載されている情報（※）が充実しており、観光客などでも迷わずに目的地まで移動できる。
※主要な商業・観光・業務・宿泊施設、公開空地等の休憩・滞在ができる空間、トイレ、コインロッカー等の情報

【地下】沿道や広場的空間には、思わず立ち寄りたくなるような店舗やコンテンツが充実している

【地上・地下】地上と地下を結ぶバリアフリー動線が充実している



【地上】イベントだけではなく、来街者が思い思いに雪と触れ合える広場的な空間が確保されている

【地上】雪と光を活かした積雪寒冷地ならではの美しい景観

【地上】低層部に屋内外の公開空地等の開放された空間があり、来街者が自由に滞留でき、ストリートの景色や人々の活動などを眺められる

【地上・地下】来街者それぞれの目的や状況に応じて、移動経路や滞留場所が選択できる

4.1　目標の実現に向けた取組の方向　（2）目標2の実現に向けた取組の方向

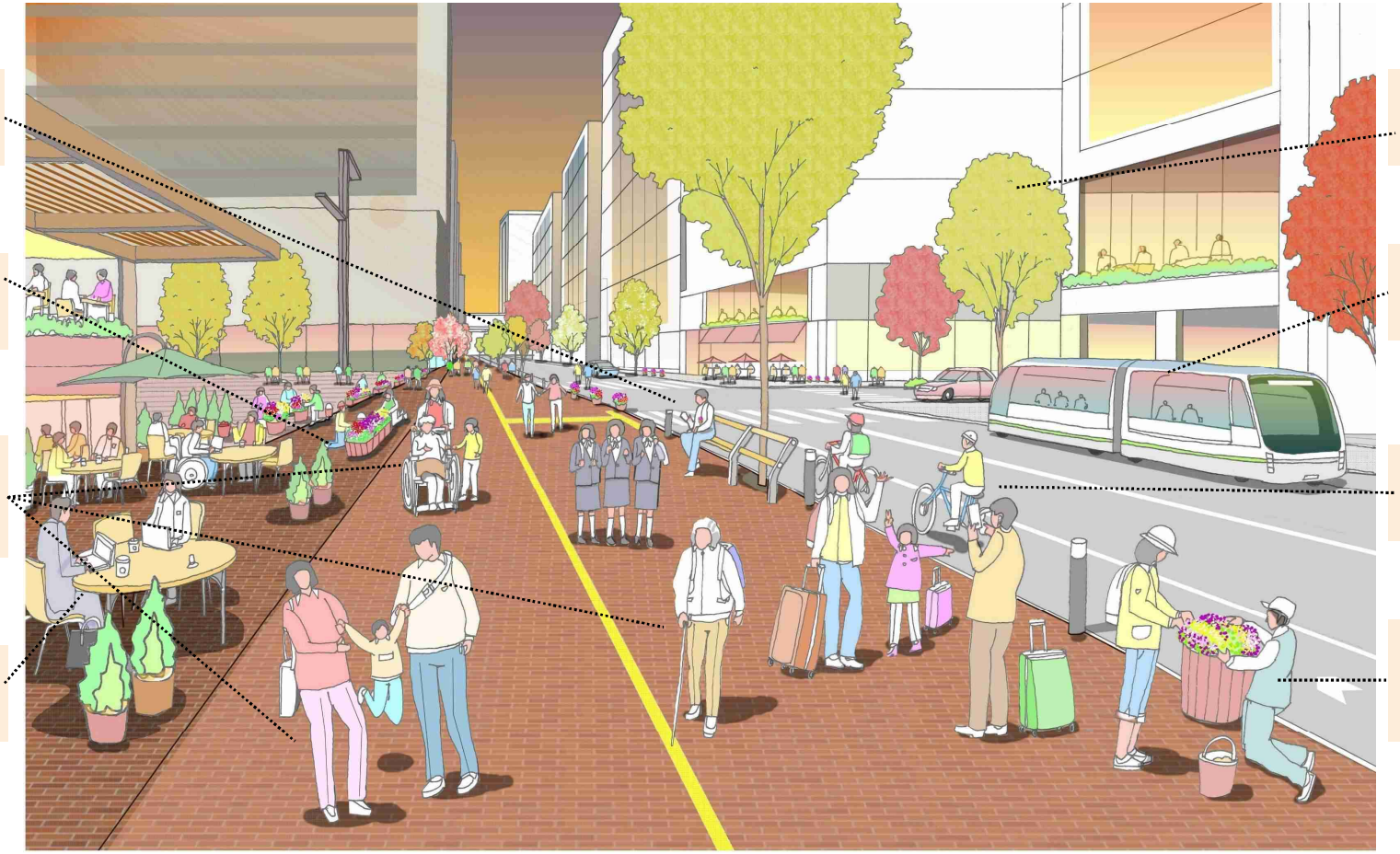
【イメージパース３：主要な通り（アイレベル）、秋、夕暮れ（平日）のイメージ】
・道路と沿道敷地が一体となったゆとりのある連続した歩行空間があり、誰でも安全・安心かつ楽しく移動ができる（家族連れや目の不自由な方、車いす利用者などへ配慮されている）
・街路樹などにより四季の移り変わりを感じられる街並みが形成されている。
・新たな公共交通などのモビリティが通行する、象徴的な通りとなっている。

・移動途中にちょっとした休憩ができるベンチ等が設置されている

・道路だけではなく沿道の敷地（屋内・屋外）も緑化されている

・道路と沿道が一体となったゆとりがあり、連続した歩行空間があり、誰でも安全・安心かつ楽しく移動ができる

・オフィスワーカーが移動中や空き時間にちょっとした仕事ができる



・街路樹などにより四季の移り変わりを感じられる街並みが形成されている

・思わず乗ってみたくなる、札幌らしい魅力的なデザインの公共交通が通行している

・自転車の通行空間が確保されていて、路上駐停車車両が少なく、安全に通行できる

・地域や沿道の関係者がプランターなどの手入れなどのまちづくり活動への参加を通じて、交流をしている

4.1　目標の実現に向けた取組の方向　(2)目標2の実現に向けた空間形成指針

○　都心の骨格構造等をベースとし、都心全体への波及効果やエリアのつながりによる相乗効果を発揮するため、空間を「点・線・面」の視点で考えることで、より回遊性や界わい性が高い空間の実現を目指す。
○　そのうえで、都心に必要な交通機能を確保するとともに、各機能のバランスや相乗効果を発揮する視点も踏まえる。

【Ⅰ．回遊・滞在機能の視点】

点

～　増やす、質を高める　～

●　**魅力的な目的地や滞留空間の形成**
・公園や広場、沿道の施設・店舗などの来街者にとって魅力的な目的地が多く、回遊の途中で休憩・滞在・交流ができる質の高い空間を形成

線

～　つなぐ、強化する　～

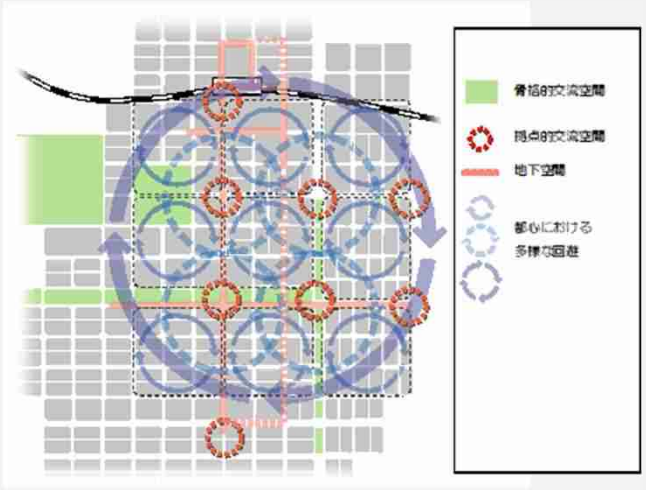
●　**魅力的なストリート空間や界わい空間の形成**
・緑化などの魅力的な景観、オープンカフェや路面店、広場空間などにより魅力的なストリートが形成され、移動中にもまちの新たな魅力・価値が発見できる
・街区を割る中通りや建物内の貫通通路など、奥行きのある空間が形成され、表通りとは違った変化や個性を感じられる

面

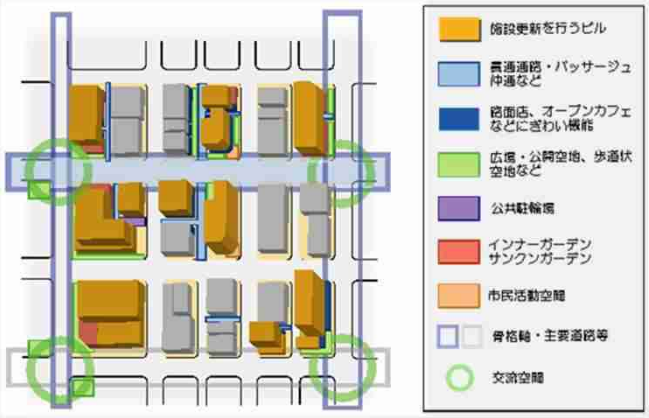
～　ネットワーク化する　～

●　**都心全体の回遊促進**
・大きな単位のブロック（概ね３×３街区）同士をつなぐ骨格軸を強化し、都心全体の更なる回遊性の向上を図る
・季節や天候、目的によって選択性や快適性が高い地上・地下の重層的な歩行者ネットワークを形成

＜左記の考え方を示すイメージ図を作成予定＞



【都心部の多様な回遊】



【界わい空間の考え方】
出典：都心まちづくり戦略(札幌市）より

4.1　目標の実現に向けた取組の方向　(2)目標2の実現に向けた空間形成指針

○　前頁からの続き

【Ⅱ．交通機能の視点】

～　強化、充実、適正化する　～

点

●ヒトやモノの移動の拠点、沿道へのアクセス環境の確保
・交通結節機能の強化やモビリティスポットの充実
・公共交通への乗降や沿道施設への荷さばきなど、アクセス環境の確保
・駐車場整備量の適正化や集約化等

～　確保、充実する　～

線

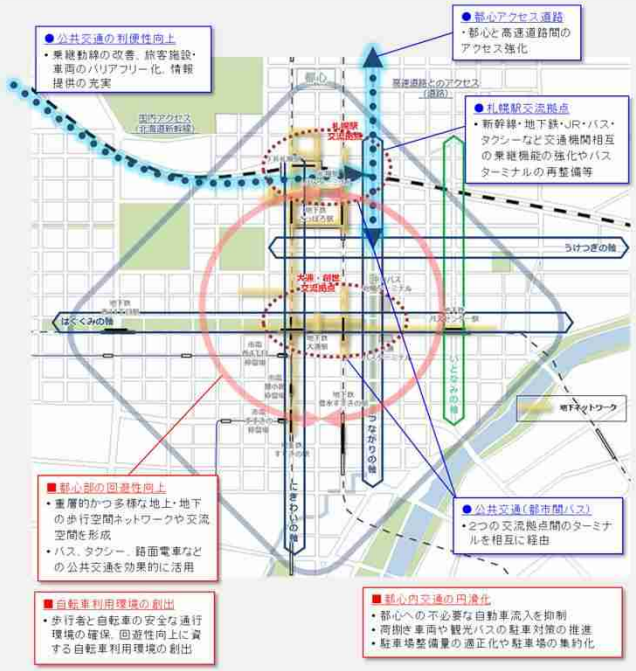
●都心に重要な交通モードの通行空間の確保・充実
・自転車、公共交通（路面電車、バス、タクシー、新たな公共交通（予定）等）の通行空間の確保

～　ネットワーク化する　～

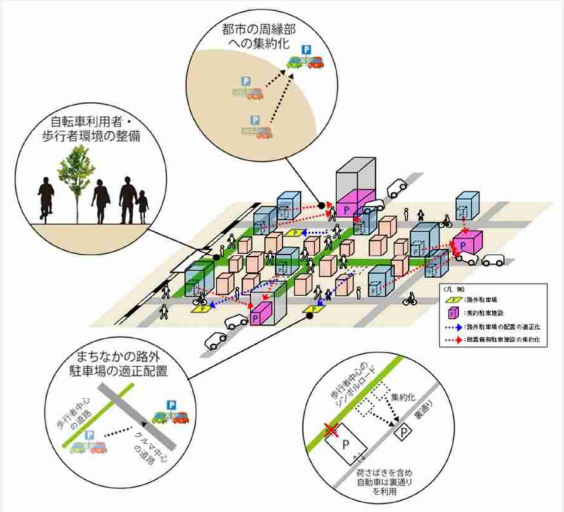
面

●面的な交通ネットワークの形成
・多様な交通モードが充実した、選択性の高い交通ネットワークの形成
・通過交通の分散等に資する取組の実施

＜左記の考え方を示すイメージ図を作成予定＞



【都心交通全般の考え方】出典：札幌市総合交通計画



【駐車場集約化等のイメージ】
出典：多様なニーズに応える道路ガイドライン（国交省）

4.1　目標の実現に向けた取組の方向　(2)目標2の実現に向けた空間形成指針

○　前頁からの続き

【Ⅲ．共通の視点】

共通

～　バランス、連携、相乗効果　～

●各機能のバランスの適正化や連携による相乗効果の発揮
・エリアや通りの特性や沿道用途等により求められる機能に応じた回遊・滞在機能と交通機能のバランスの適正化
・交通とまちづくりの連携による相乗効果の発揮

【Ⅰ．回遊・滞在機能の視点】（再掲）

～　増やす、質を高める　～

点
● 魅力的な目的地や滞留空間の形成
・公園や広場、沿道の施設・店舗などの来街者にとって魅力的な目的地が多く、回遊の途中で休憩・滞在・交流ができる質の高い空間を形成

～　つなぐ、強化する　～

線
● 魅力的なストリート空間や界わい空間の形成
・緑化などの魅力的な景観、オープンカフェや路面店、広場空間などにより魅力的なストリートが形成され、移動中にもまちの新たな魅力・価値が発見できる
・街区を割る中通りや建物内の貫通通路など、奥行きのある空間が形成され、表通りとは違った変化や個性を感じられる

～　ネットワーク化する　～

面
● 都心全体の回遊促進
・大きな単位のブロック（概ね3×3街区）同士をつなぐ骨格軸を強化し、都心全体の更なる回遊性の向上を図る
・季節や天候、目的によって選択性や快適性が高い地上・地下の重層的な歩行者ネットワークを形成

連携
バランス

【Ⅱ．交通機能の視点】（再掲）

～　強化、充実、適正化する　～

点
●ヒトやモノの移動の拠点、沿道へのアクセス環境の確保
・交通結節機能の強化やモビリティスポットの充実
・公共交通への乗降や沿道施設への荷さばきなど、アクセス環境の確保
・駐車場整備量の適正化や集約化等

～　確保、充実する　～

線
●都心に重要な交通モードの通行空間の確保・充実
・自転車、公共交通（路面電車、バス、タクシー、新たな公共交通（予定）等）の通行空間の確保

～　ネットワーク化する　～

面
●面的な交通ネットワークの形成
・多様な交通モードが充実した、選択性の高い交通ネットワークの形成
・通過交通の分散等に資する取組の実施

＜左記の考え方を示すイメージ図を作成予定＞

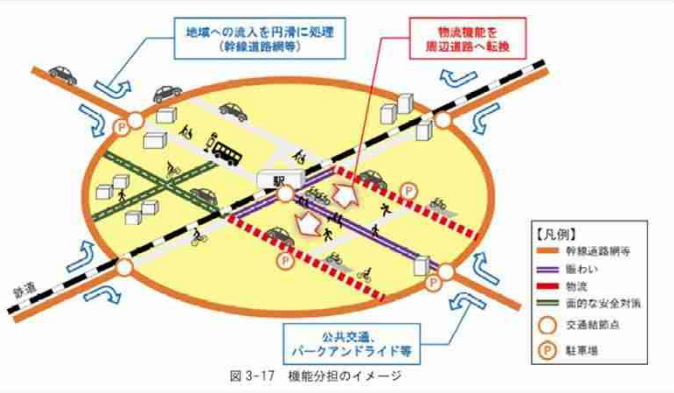
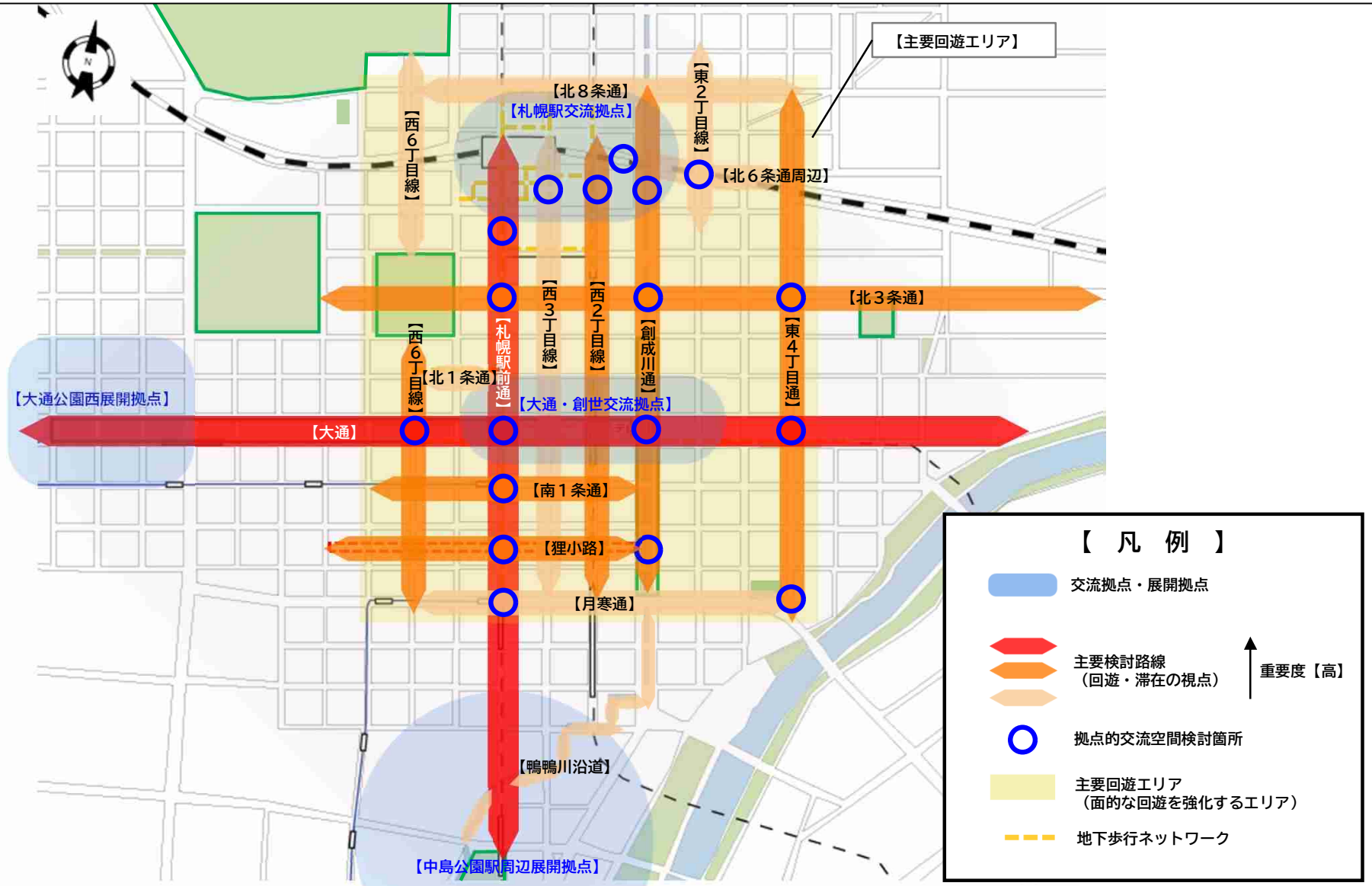


図 3-17　機能分担のイメージ

【機能分担のイメージ】
出典：多様なニーズに応える道路ガイドライン（国交省）

4.1　目標の実現に向けた取組の方向　(2)目標2の実現に向けた空間形成指針

○　前頁にて整理した「点（主要な施設・目的地等）」や「主要回遊エリア」を踏まえ、点と点を結ぶ通り（線）とエリアの回遊を促進する「面」の視点に加え、都心の骨格構造や関連計画、関連するまちづくり団体やその取組状況等を加味して、回遊・滞在の視点での「主要検討路線」と「拠点的交流空間検討箇所」を選定する。



4.1　目標の実現に向けた取組の方向　(2)目標2の実現に向けた空間形成指針

○　前頁で示した主要検討路線や拠点的交流空間検討箇所における今後の検討の考え方（案）を以下に示す。

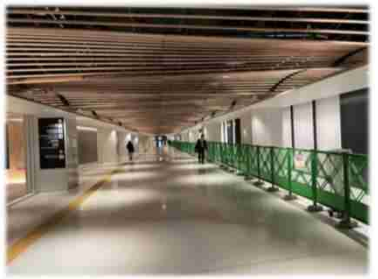
凡例(前頁参照)	今後の検討の考え方(案)	参考事例(一例)
主要検討路線	○　通りに求められる機能や重要度等を踏まえて、下記を参考に地域や沿道等の関係者と将来像を共有し、取組を検討・推進する	
	・人中心の魅力的なストリートの実現に向けて、道路や沿道が一体となった空間形成を目指し、ハード・ソフトの両面から取組を推進する。	【参考事例】 ・北3条広場、御堂筋将来ビジョン…フルモール ・大手前通り(姫路市)、富山市社会実験…トランジットモール ・南1条通社会実験、葺合南54号線・・・歩道空間の拡幅
	・四季を通じて安全・安心な歩行環境の充実を図るため、まちづくりの動向等を踏まえて、地上・地下の重層的な歩行者ネットワークの拡充を図る。	【参考事例】 ・札幌駅前通地下歩行空間、地下街…通行(回遊)+にぎわい等 ・北8西1地下通路・・・通行(回遊) ・因幡町通り地下歩道(福岡市)・・・通行(回遊)
	・歩行者・自転車の通行や沿道へのアクセス環境に配慮しつつ、既存の道路空間の有効活用を図る。	【参考事例】 ・三宮中央通り・・・パークレットの設置 ・さっぽろシャワー通り・・・ベンチ等の設置
○　拠点的交流空間検討箇所	・地域の活動や回遊を生み出す拠点として、骨格軸等の主要な通りの結節点において、官民が連携して魅力的な空間の創出を検討する。	【参考事例(広場空間)】 ・狸二条広場、Ginza Sony Park(暫定利用) 【参考事例(沿道施設における滞留空間)】 ・ココノススキノ、4丁目PLACEのなどの公開空地 【参考事例(辻空間の魅力化)】 ・創成川公園(街路樹やプランター、ベンチ等の配置)

【参考事例】

【参考】御堂筋将来ビジョン
（大阪市）

【参考】トランジットモール社会実験
（富山市）

【参考】葺合南54号線
（神戸市）

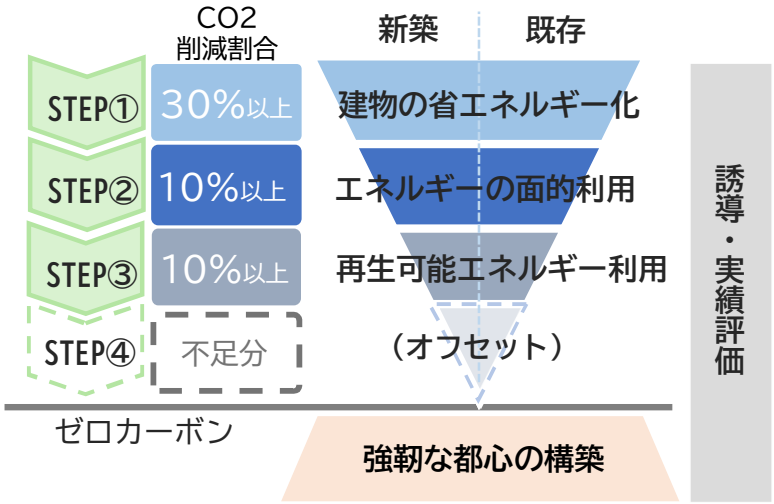


【参考】因幡町通り地下歩道
（福岡市）

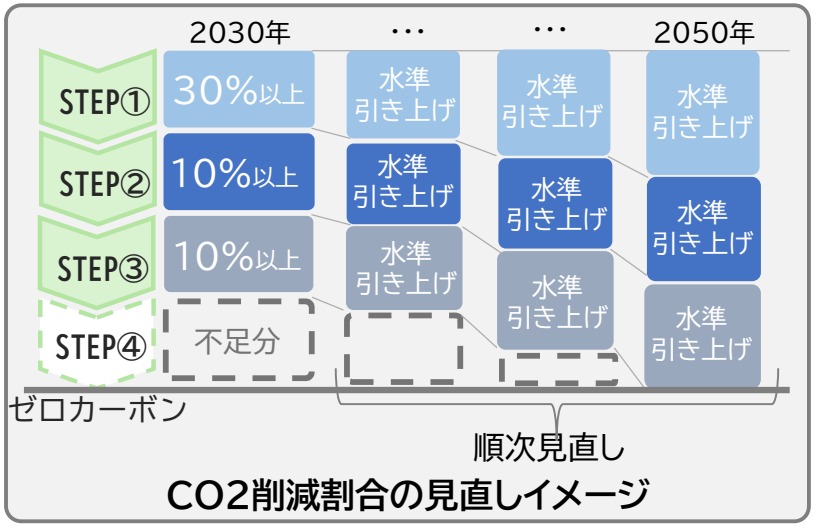
【参考】パークレット
（神戸市）

4.1　目標の実現に向けた取組の方向　(3)目標3の実現に向けた取組の方向

目標3
気候風土に即した先進的な取組により脱炭素化・強靭化が進む都心



建物における目標実現に向けた取組イメージ



CO2削減割合の見直しイメージ

基本方針

3-1　最適な手法の組み合わせによる脱炭素化の推進

- 目標の達成に向け、**「STEP①建物の省エネルギー化」、「STEP②エネルギーの面的利用」「STEP③再生可能エネルギー利用」の三つの手順に沿って**CO2排出量の削減を目指し、建物の立地、規模、用途構成などに応じた**最適な手法の組み合わせにより都心の脱炭素化を推進**。
- 一方、現時点においてはSTEP①～③だけでは脱炭素化の実現が困難なことから、ゼロカーボンを達成するための不足分を補うため、**当面の間の手順として「STEP④オフセット」を位置付け**。
- 計画期間中(20年以内)の建替え予測を踏まえ、新築建物に加えて**既存建物の改修機会を捉え、取組を強化**。

3-2　雪や寒さにも負けない、安全・安心で強靭な都心の構築

- **誰もが安全・安心に都市活動を行えるよう「強靭な都心の構築」を位置付け**、まちづくりとエネルギー施策が連携した取組により強靭化を推進。

3-3　先進的な取組の誘導と適切な進捗管理

- **建物の特性に応じた効果的な取組の「誘導」と適切な「実績評価」**により取組の実効性を確保。

基本方針３-１　最適な手法の組み合わせによる脱炭素化の推進

３ - １ - １　建替更新･改修時の徹底した省エネ化の推進

取組の方向

- 建替更新や改修時における省エネ化（ZEB、ZEH-M、ZEH水準の確保）
- 建物の立地、規模、用途構成などに応じた効果的な省エネ設備の導入拡大
- 新築建物に加えて既存建物へのBEMS導入拡大

取組を進めるエリア区分：脱炭素化・強靭化先導エリア　脱炭素化推進エリア　進捗管理区域

（仮称）中期アクションプログラムにおける取組イメージ

≪既存建物への取組≫
- 既存建物についてBEMSの導入や効果的な省エネ改修（ZEB改修等）を誘導　など

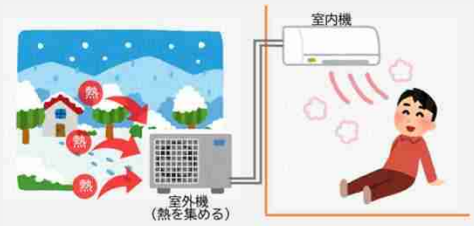
≪新たな手法の位置づけ≫
- 現行マスタープランに明記されていないヒートポンプ等の取組について明記

など

＜参考＞立地･規模･用途構成に応じた効果的な省エネ設備の例

ヒートポンプ

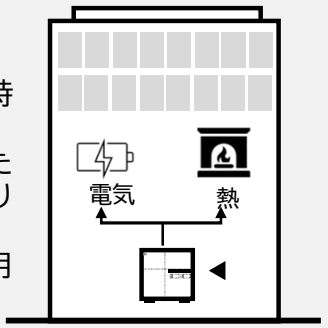
- 大気中の熱などを利用することにより、少ないエネルギーで効率的に冷暖房や給湯を行うことが可能。
- 動力源として電力(EHP)とガス(GHP)に大別される。
- 様々な規模、用途の建物での活用を想定。



ヒートポンプによる暖房のイメージ

マイクロコージェネレーションシステム

- 個々の建物において排熱利用による平時のエネルギー利用効率の向上に寄与。
- 災害等により万が一系統電力が途絶した場合においても、電力の供給継続により強靭化にも有効。
- 給湯や暖房等の熱需要の大きい建物用途での活用を想定。



マイクロコージェネレーションシステムのイメージ

基本方針3-1　最適な手法の組み合わせによる脱炭素化の推進

3 - 1 - 2　エネルギーの面的利用の更なる拡大と効率化

取組の方向

- エネルギーネットワークへの接続の推進
- 大規模開発と連動したエネルギーセンターの整備
- 開発と連動した冷温水導管の整備拡充
- 複数のエネルギーセンター間の連携に向けた熱導管の整備拡充
- エネルギーセンターへの新技術の導入（ICT活用による高効率化など）
- エネルギーセンターにおける熱の脱炭素化
- 既存のエネルギーネットワークとの接続が難しい地域においては拠点型エネルギー供給などを推進

＜参考＞拠点型エネルギー供給の事例

- 北4東6街区では、CGSや再エネを導入したエネルギーセンターを整備し、街区内の各施設へ電力及び熱(冷水・温水)を供給。
- また、街区一帯のエネルギーの一括管理により省エネを推進。

取組を進めるエリア区分：脱炭素化・強靭化先導エリア　脱炭素化推進エリア　進捗管理区域※

※進捗管理区域においても大規模開発が見込まれる場合には拠点型エネルギー供給などの取組を推進。

（仮称）中期アクションプログラムにおける取組イメージ

- 当面の取組としてのエネルギーセンターにおけるカーボン・オフセット都市ガスへの切替え

など

＜参考＞ ICT活用によるエネルギーセンター効率化の例

エリアエネルギーマネジメントシステム(AEMS)

- 地域全体のエネルギー消費をリアルタイムで監視・管理することにより全体最適を図り、効率的にエネルギーを利用。

変温度供給システムの構築

- 気象条件等に応じて熱供給温度を変化させ、熱源機器の運転負荷を抑制することにより、運転効率を向上。

基本方針３-１　最適な手法の組み合わせによる脱炭素化の推進

３ - １ - ３　先進技術を活用した再生可能エネルギーの導入

取組の方向

敷地内

- オンサイトでの再エネ導入（太陽光発電、太陽熱、地中熱、下水熱など）

敷地外

- オフサイトPPAによる再エネ電力の導入
- 道内自治体との連携による再エネ電力の導入
- エネルギーセンターへのバイオマスなどの再エネ利用の拡大
- 再エネに由来する水素エネルギーの都心への導入検討

敷地外(オフセット)

- 当面の間の有効な手法としての再エネ由来クレジット等を活用したCO2オフセット

（仮称）中期アクションプログラムにおける取組イメージ

- 都心の特性に応じた再エネ導入の手法として建材一体型太陽光発電設備やペロブスカイト太陽電池などの新技術の導入促進
- 再エネ由来水素の具体的な導入方策の検討　など

取組を進めるエリア区分：脱炭素化・強靭化先導エリア ／ 脱炭素化推進エリア ／ 進捗管理区域

＜参考＞共同住宅の脱炭素化の取組例

共同住宅における再エネ電力の導入

- 共同住宅の各住戸ごとの契約や一括受電方式※による再エネ１００％電力の導入

※共同住宅において、住戸ごとの個別の電力契約ではなく管理組合等が建物全体で一括して電力契約を結び、各住戸に電力供給する方式。

＜参考＞脱炭素化に向けた供給側の取組

エネルギー供給事業者では、脱炭素なエネルギー供給に向けて様々な取組を進めており、これにより需要家側の脱炭素化が面的に進展。

系統電力の脱炭素化

- 火力発電所における化石燃料から水素･アンモニア等への転換など脱炭素なエネルギーを活用。

カーボンニュートラル拠点の整備検討

- 北海道におけるGXの推進をより一層加速させるため、エネルギーインフラが集約される苫小牧地区に、将来的な水素、合成メタン導入等を見据えた新たなLNG基地の建設を検討。

基本方針３-１　最適な手法の組み合わせによる脱炭素化の推進

1－1～1－3で示される取組の方向を踏まえたエリア区分毎の取組の考え方を示します。

エリア区分毎の取組の考え方

脱炭素化・強靭化先導エリア

エネルギーネットワークインフラの活用　様々な都市機能の集積　都市開発が活発

- エネルギーネットワークインフラの活用が可能な場合は、建物の建替更新等に合せて接続を誘導
- 大規模開発等と連動したエネルギーセンターの整備
- 複数のエネルギーセンター間の連携に向けた熱導管の拡充
- エネルギーセンターの脱炭素化に向けた新技術の導入

脱炭素化推進エリア

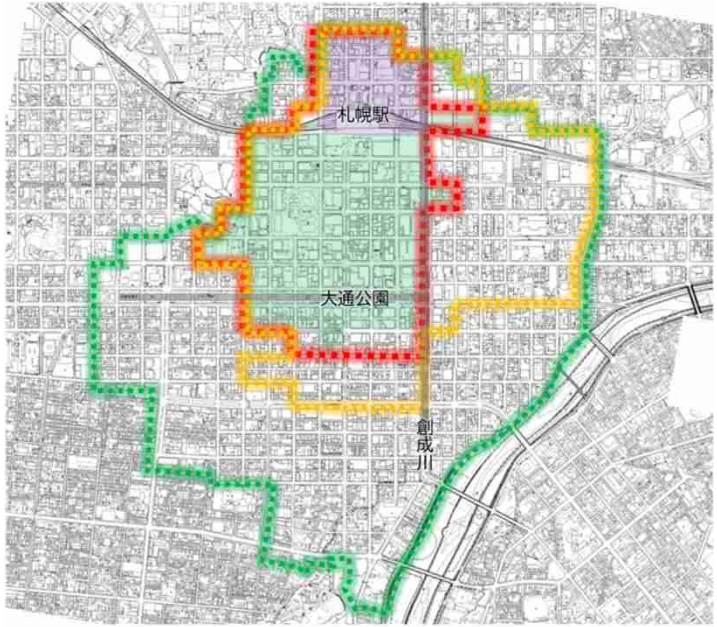
都市再生に寄与する都市開発が進展

- 面的な開発が検討される場合は、複数街区間で最適なエネルギー利用がなされるよう拠点型熱供給等を誘導

進捗管理区域

個別的な建替えや改修が進展

- 建物の立地・規模・用途構成等に応じた脱炭素化の取組を誘導
  - ✓ 比較的大規模な開発については、個々の建替え時における徹底した省エネと太陽光発電設備の導入によりZEB・ZEH-M化を誘導
  - ✓ 小規模な建物については、ZEB・ZEH-M・ZEH化や省エネ改修等に係る支援策を効果的に活用



<参考>支援策の例(現行の支援策)

- ZEBセミナー
- ZEB、ZEH-M設計支援
- 暖房･給湯機器のエネルギー源転換の促進
- 札幌市住宅エコリフォーム補助制度
- 札幌版次世代住宅(ZEH相当以上の住宅)の普及
- 再エネ省エネ機器導入補助制度
- 既存集合住宅省エネ改修コンサルタント派遣事業

など

基本方針3-2　雪や寒さにも負けない、安全・安心で強靭な都心の構築

3 - 2 - 1　災害時における市民、来街者、ワーカーの安全確保

取組の方向

・民間建築物等の耐震化の推進
・地下空間における浸水被害に備えた対策の推進
・帰宅困難者や観光客を受け入れる、冬季の利用も想定した一時滞在施設の整備促進
・一時滞在施設への電力・熱・水の供給継続
・デジタル技術の活用等による災害発生時時における来街者への情報伝達の強化、多言語化の推進

（仮称）アクションプログラムにおける取組イメージ※
・民間建築物耐震化促進事業など
・開発誘導方針の運用を通じた一時滞在施設・備蓄倉庫の整備促進、非常用電源の導入誘導　など

※災害種別ごとの対策について整理を予定

＜参考＞発災時における建物の機能維持の重要性

- 大規模な地震等の災害が発生した際の都心部における屋外滞留者は、最大で約46,000人※に達することが想定され、特に冬季への対応として一時滞在施設の整備が重要。
- 発災時にライフラインが途絶した場合への備えとして、一時滞在施設等への電力、熱、水の供給を継続することが重要。

（一時滞在施設への電力、熱の供給継続の例）

2018年の胆振東部地震の際には、非常用発電機とCGSにより一時滞在施設を含む建物全体への電力と熱の供給が継続。

※札幌駅・大通駅周辺地区都市再生安全確保計画（札幌市都心地域都市再生緊急整備協議会）より

基本方針３-２　雪や寒さにも負けない、安全・安心で強靭な都心の構築

３－２－２　経済活動を維持するための備えの充実

取組の方向

・非常用電源の整備促進(CGS、非常用発電機の整備など)
・複数回線受電による電力供給の強化
・大規模開発と連動したエネルギーセンターの整備(再掲)
・防災備蓄倉庫の整備促進

（仮称）アクションプログラムにおける取組イメージ
・非常用電源（CGS、非常用発電機等）の整備など

＜参考＞エネルギーの安定供給に向けた供給側の取組

系統電力の強化

- 北海道エリアの供給信頼度の向上などを目的に北海道と本州の間をつなぐ電力の連携設備を増設。

３－２－３　多様な主体による防災に向けた取組の促進

取組の方向

・避難訓練や帰宅困難者の受入訓練の実施
・エリアマネジメントと連携した防災対策の推進
・帰宅困難者の受入空間としてパブリックスペースの活用

（仮称）アクションプログラムにおける取組イメージ
・札幌市都心地域帰宅困難者等対策協議会の開催、エリアマネジメント活動の促進など

基本方針３-３　先進的な取組の誘導と適切な進捗管理

３－３－１　建物の特性に応じた効果的な取組誘導

取組の方向

- 「札幌都心Ｅ！まち開発推進制度」における事前協議の運用改善
（建物の立地、規模、用途構成などに応じた誘導を可能とするための対象範囲や評価方法等の再検証）
- 既存建物の改修等を促す方策の導入

（仮称）中期アクションプログラムにおける取組イメージ
≪**既存建物**≫
- 「札幌都心Ｅ！まち開発推進制度」における既存建物の対象範囲の拡充を検討
- 初期段階における検討を支える支援方策の検討（ZEBプランナーの紹介制度や省エネ診断の推進等）

≪**新築建物**≫
- 「札幌都心Ｅ！まち開発推進制度」の協議対象の拡大

≪**共通**≫
- 「札幌都心Ｅ！まち開発推進制度」における評価方法の再検証
- 容積率緩和によらない支援制度の検討など

３－３－２　着実に脱炭素化を推進するための実績評価

取組の方向

- 「札幌都心Ｅ！まち開発推進制度」における運用実績報告によるCO_2削減量のモニタリング及び公表
- モニタリング結果を適切に評価し追加施策を検討
- 特に優れた取組を実施する建物の認定及び公表

（仮称）中期アクションプログラムにおける取組イメージ
≪**評価手法**≫
建物における目標実現に向けた取組イメージ（P.19）に示す「①建物の省エネルギー化」「②エネルギーの面的利用」「③再生可能エネルギー利用」の効果を検証

≪**協議対象**≫
モニタリングの観点から「札幌都心Ｅ！まち開発推進制度」における協議対象の範囲を見直し

序章　計画策定の背景　・・・・・・・・・・・・・・・・P.９～10

第１章　計画の目的と位置付け・・・・・・・・・・・・・P.11～12

第２章　現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.13～18

第３章　理念・目標と都心の構造・・・・・・・・・・・・P.19～28

第４章　取組の方向・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.29～72
4.1　目標の実現に向けた取組の方向　・・・・・P.29～63
4.2　都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向　P.64～72

第５章　重点的に進める取組・・・・・・・・・・・・・・P.73～81

第６章　取組の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.82～84

4.2　都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

4.2.1　骨格軸・展開軸

(1)にぎわいの軸／札幌駅前通

これまでの主な取組・成果	➢ チ・カ・ホの整備、地上部歩道の拡幅 ➢ 沿道開発に伴う地下接続・エネルギーネットワーク接続の拡充 ➢ 地域関係者・まちづくり会社の連携による地区計画やまちづくりルール等の策定、開発の事前調整	今後の課題	➢ 沿道からさらにその先へと波及する、奥行きある回遊ネットワークの強化

目指す姿	➢ 札幌の目抜き通りとして、都心の回遊性をけん引し、にぎわいをつなぐ軸

取組の方向

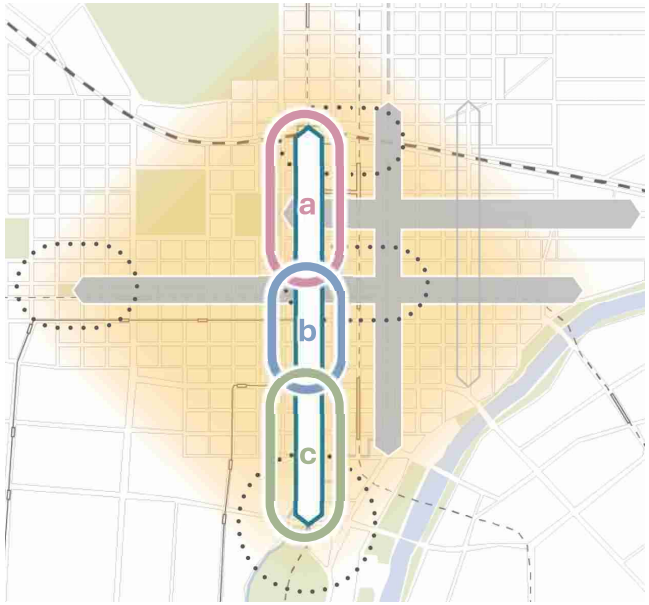
軸全体（共通）	• 地区特性に応じた街並みや低層部における機能の誘導を図り、象徴的な目抜き通りを形成 • 沿道からさらに奥のエリアに取組を展開し、回遊性を向上
a	• 札幌の玄関口である札幌駅交流拠点と呼応する高質な空間の形成 • エネルギーネットワークの強化 • 地上・地下の回遊性向上
b	• 商業街の歴史を継承した個性と賑わいを感じる魅力的な路面を形成 • 面的なエネルギー利用を推進 • 地上・地下の回遊性向上
c	• 昼の賑わい創出に加え、安心・安全な夜間観光の魅力の発揮 • 中島公園駅展開拠点と呼応した通りへのにぎわいの表出や高質化 • 駅前通南端からの回遊性の向上

R6.11月撮影

a

b

c



4.2　都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

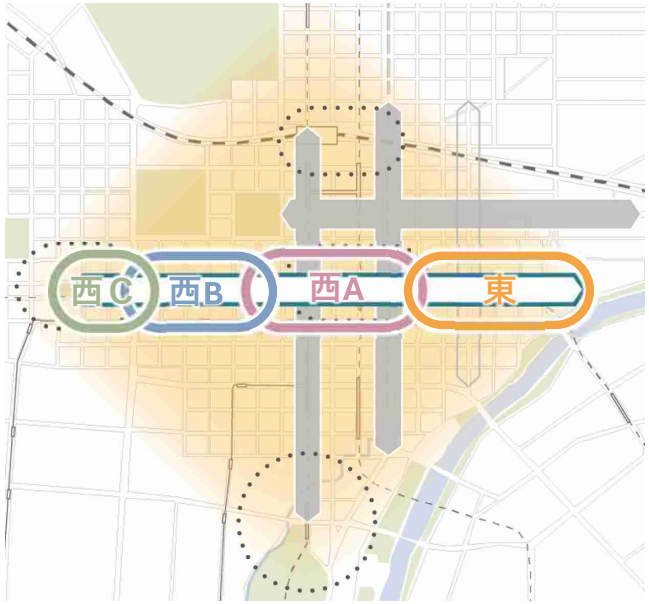
4.2.1　骨格軸・展開軸

(2)はぐくみの軸／大通

これまでの主な取組・成果	➢「大通及びその周辺のまちづくり方針」の策定 ➢「大通公園のあり方」の策定検討中
今後の課題	➢ 官民連携で「大通及びその周辺のまちづくり方針」を具体化
目指す姿	➢ 大通公園と沿道が一体となり、札幌都心の象徴性を高め、新たな価値をはぐくむ軸

取組の方向

軸全体（共通）	• 公園・道路空間・沿道が一体となり、魅力的な街並み・連続したみどりの空間を形成 • 沿道からさらに奥のエリアに取組を展開し、回遊性を向上 • 市民・企業・行政などの協働による、道路空間を含むパブリックスペースの多様な利活用
西A	• 大通・創世交流拠点の取組と連動
西B	• 居住や業務が共存し、まちに開かれた沿道空間を創出
西C	• 大通公園西展開拠点の取組と連動
東	• 西側の活力を引き込み創成東地区の資源を活かした空間形成



4.2　都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

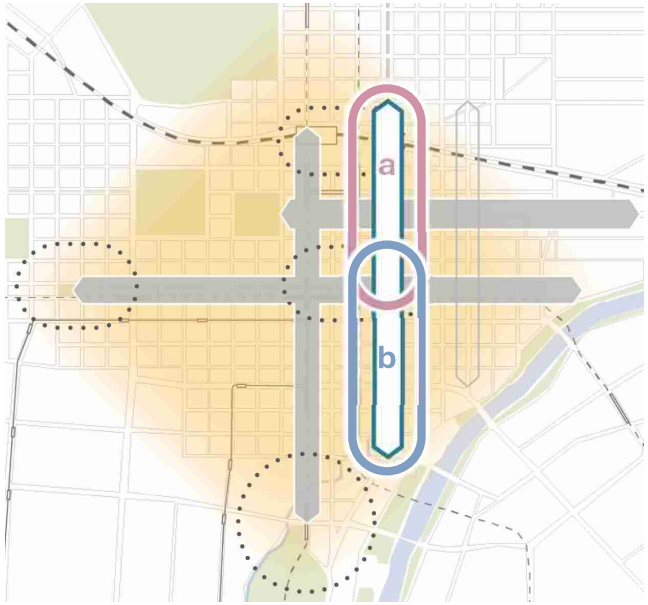
4.2.1　骨格軸・展開軸

(3)つながりの軸／創成川通

これまでの主な取組・成果	➢ 創成川公園･狸二条広場の整備･活用 ➢ 都心アクセス道路の事業推進
今後の課題	➢ 都心アクセス道路の整備と新幹線の開業を見据えた更なる魅力の向上
目指す姿	広域から都心へのアクセスを支えながら、東西のまちのつながりを生む軸

取組の方向

軸全体（共通）	• 創成川と呼応する潤い・落着きのある空間の形成 • 東西市街地をつなぎ、回遊性を向上 • 都心アクセス道路の整備によって広域からのアクセス性を向上
a	• 札幌駅交流拠点と調和がとれた街並み・眺望の形成 • 新幹線開業を見据えたパブリックスペースの充実
b	• 親水空間を活かして整備されたパブリックスペースの多様な利活用



4.2　都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

4.2.1　骨格軸・展開軸

(4)うけつぎの軸／北3条通

これまでの主な取組・成果

- 北3条広場の整備･活用
- 創成川以東の電線地中化等による景観の向上

今後の課題

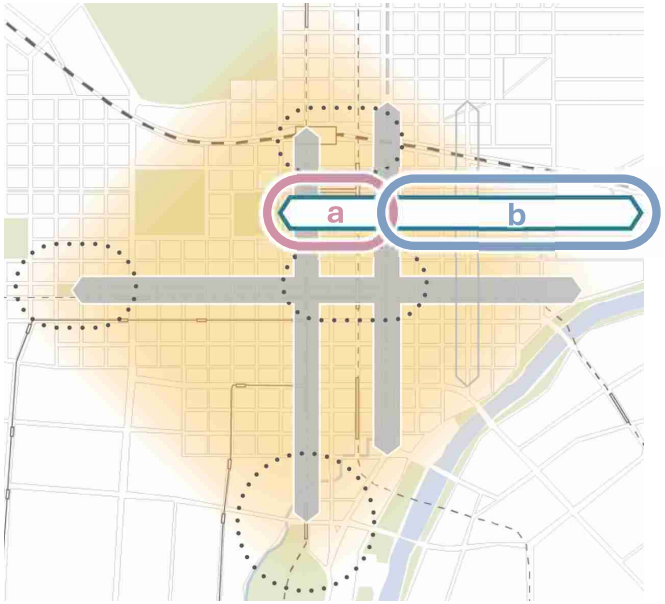
- 新幹線の開業を見据えた東西方向の回遊性の向上

目指す姿

東西の回遊を促す、歴史や文化の魅力あふれる街並みをうけつぐ軸

取組の方向

軸全体（共通）	• 沿道の歴史資源と調和した街並みの形成 • 東西方向の快適な移動環境の充実 • 地域資源を活かして整備されたパブリックスペースの多様な利活用
a	• にぎわいの軸からの活気・回遊の波及
b	• 苗穂駅方面への活気・回遊の波及



4.2　都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

4.2.1　骨格軸・展開軸

(5)いとなみの軸／東4丁目通

これまでの主な取組・成果

- 沿道を含む創成東地区の地区計画策定
- 歩道拡幅･電線地中化･クランク解消に向けた事業推進
- 沿道における民間開発の進展

今後の課題

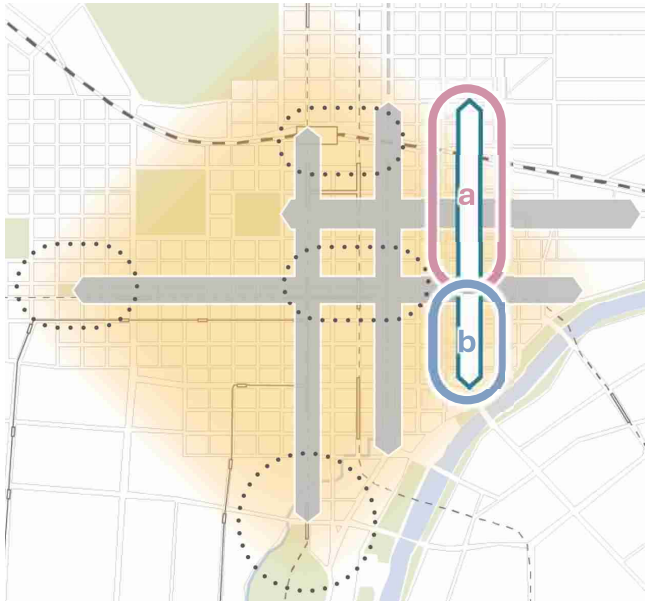
- 都市計画道路の再整備に伴うにぎわい創出と回遊性の向上

目指す姿

交流と活気にあふれる沿道から職・住・遊のいとなみを感じる軸

取組の方向

軸全体（共通）	• 通りと沿道が一体で街並み、潤いを感じるみどりを創出 • 道路整備を通じて、快適な移動空間、コミュニティを育むパブリックスペースを創出
a	• 市民・企業・行政などの協働による、道路空間を含むパブリックスペースの多様な利活用 • クランク解消により生まれる空間の有効活用 • 面的なエネルギー利用を推進
b	• まちづくりの取組と連携したパブリックスペースの有効活用



4.2　都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

4.2.2　交流拠点・展開拠点

(1)札幌駅交流拠点

これまでの主な取組・成果

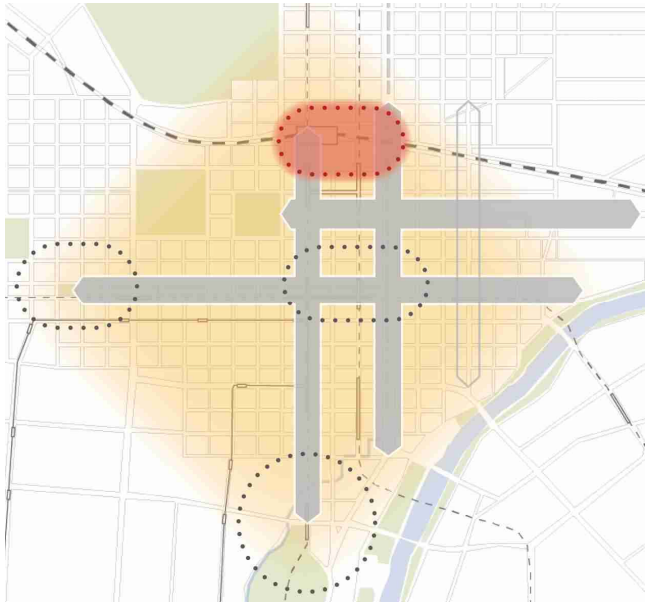
- 新幹線の開業を見据えたまちづくり計画の策定
- 北5西1･2地区市街地再開発事業等の事業推進
- 創成川東西市街地の連続性強化に向けた検討

今後の課題

- 新幹線整備と連動した周辺再開発の着実な推進
- 長期化する工事期間中の機能確保や賑わいの維持
- 交通結節機能の強化と、歩行環境の充実

目指す姿

広域的な交通網が結節する札幌の玄関口として国際競争力を先導する拠点



取組の方向

- 骨格軸との連動により、札幌の玄関口にふさわしい魅力的な空間形成
- 国際水準の高次都市機能の集積
- 新幹線の開業を見据えた交通結節点の強化
- 先進技術やエネルギーネットワークインフラを活用した脱炭素化・強靭化の先導

- 広域交通結節点と都心内の移動手段との接続の円滑化
- 創成川東西市街地の連続性強化
- パブリックスペースの多様な利活用の促進
- エネルギーネットワークの強化
- 来街者の安全確保、経済活動の機能維持

4.2.2　交流拠点・展開拠点

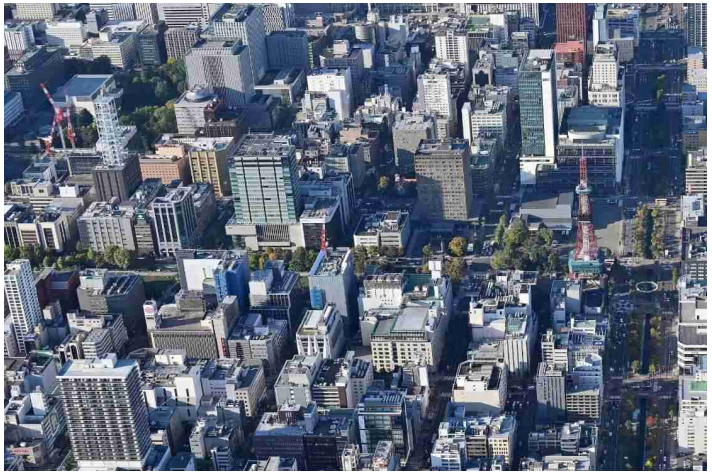
(2)大通･創世交流拠点

これまでの主な取組・成果

- 創世スクエア開業に伴う新たな交流拠点機能の創出
- 「大通及びその周辺のまちづくり方針」の策定（西Aゾーンに位置づけ）
- 大通西4南地区市街地再開発事業の推進
- 市役所本庁舎のあり方について検討開始

今後の課題

- 骨格軸や地域資源との連携による更なる象徴性の創出
- 骨格軸を介した東西市街地の連携強化
- 官民連携によるまちづくりの推進

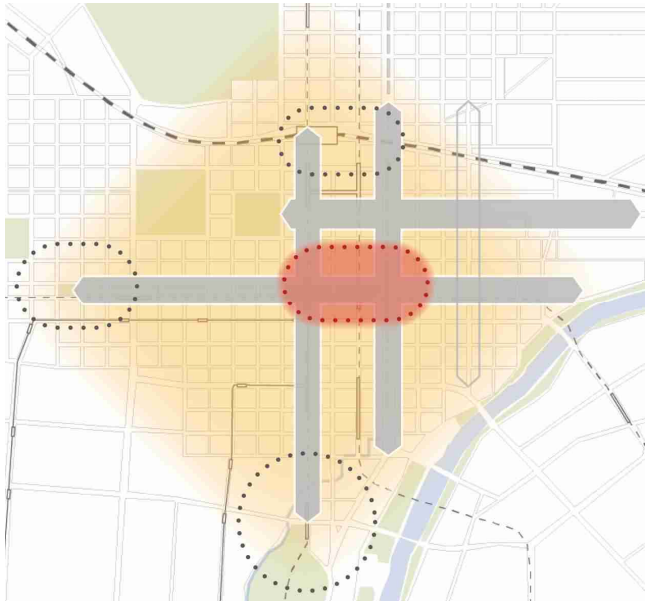


目指す姿

はぐくんできた価値と新しい価値が融合した世界に誇れる価値を創造する象徴的な拠点

取組の方向

- 複数街区での連鎖開発と相互連携を通じた新たな象徴空間の創出
- 都心の回遊性を高める交通環境の構築
- 魅力的な滞在空間や歩行者動線の創出
- 先進技術やエネルギーネットワークインフラを活用した脱炭素化・強靭化の先導
- 地域資源（観光、文化・芸術、交流施設等）と連携した都市文化拠点の形成による象徴性の創出



4.2　都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

4.2.2　交流拠点・展開拠点

(3)大通公園西展開拠点

現況・動向

- 「大通及びその周辺のまちづくり方針」の策定（西Cゾーンに位置付け）
- まちづくりガイドラインの策定に向け検討中
- 市有地（芸文館跡地）の利活用の検討

課題

- 地域の資源や特性をさらに生かす取組の必要性
- はぐくみの軸のまちづくりの効果の「軸」外側への波及

目指す姿

都心西側の回遊拠点を形成し、美しいみどりや歴史・文化芸術を生かした多様な交流をはぐくむ拠点

取組の方向

- 地域資源（みどり、歴史文化・芸術）やまちの特性を活かしたまちづくりや市有地の利活用
- 大通公園、沿道街区、地域資源などが調和し、一体感を感じられる街並みの形成
- はぐくみの軸の賑わいを都心西側やその周辺につなぐ歩いて回れるネットワークの強化

(4)中島公園駅展開拠点

現況・動向

- 「新MICE施設整備基本計画」の策定（H30）（再検討中）
- まちづくり基本構想の策定（R3）
- 中島公園のあり方検討の実施（R5～6）
- まちづくりガイドラインの策定に向け検討中

課題

- 回遊性の向上とにぎわいの創出
- 地域資源の魅力向上とそれを生かした取組の展開
- MICE開催を支える機能の充実
- まちづくりの体制構築

目指す姿

地域に培われた歴史・文化と新たな集客・交流機能が調和した都心南端の拠点

取組の方向

- 駅前通への通りに開かれた商業・交流機能などの誘導と街並み景観に配慮した空間の高質化
- 鴨々川や寺社などの地域資源を生かした歩いて楽しめる空間の形成
- 駅前通南端からの回遊性の向上
- 新MICE施設と中島公園北口の魅力的な空間の創出
- MICE開催に対応した機能の誘導やMICE参加者が楽しめる環境の充実

序章　計画策定の背景　・・・・・・・・・・・・・・・・P.９～10

第１章　計画の目的と位置付け・・・・・・・・・・・・・P.11～12

第２章　現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.13～18

第３章　理念・目標と都心の構造・・・・・・・・・・・・P.19～28

第４章　取組の方向・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.29～72

第５章　重点的に進める取組・・・・・・・・・・・・・・P.73～81

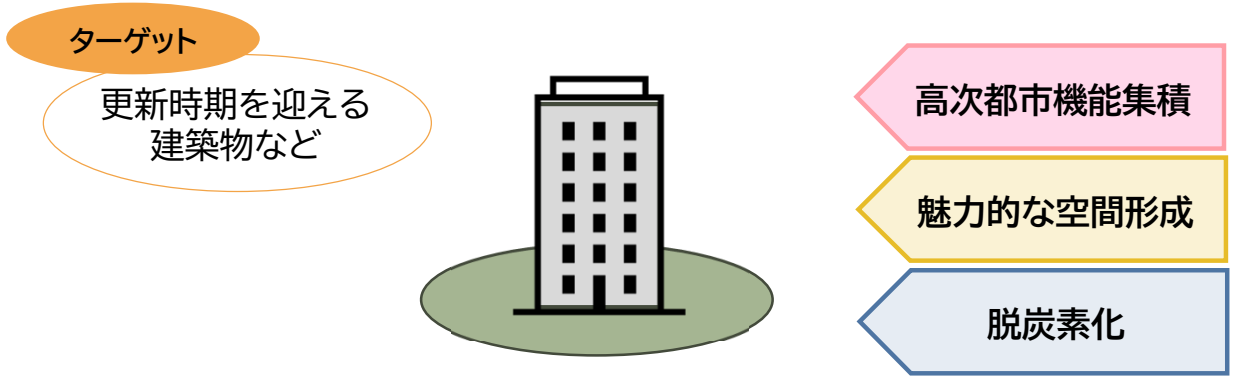
第６章　取組の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・P.82～84

6/30　検討会　提示資料

5.1　取組を進めるにあたって重視する考え方

重視する考え方

- これまでも更新時期を迎える民間建築物などに対して、良好な開発となるよう様々な取組を通じて誘導・調整してきたところですが、今後、３つの目標を実現するためには、まちづくりとエネルギー施策の総合性・一体性を高めることが重要です。
- 今後は各取組の強化とともに取組間の連携を強め、まちづくりとエネルギー施策が相互に補完しあう仕組みを構築します。
- それをわかりやすく発信し、事業者に対して理解を促し、建替等の機会を通じて目標の実現につながる取組を一体的に誘導していきます。



6/30　検討会　提示資料

5.1　取組を進めるにあたって重視する考え方

重視する考え方

- 良好な開発に向けて（目に見える）札幌らしさを強調することも重要です。
- 企画設計・運用上の視点において、特に配慮すべきポイントを示します。

ひと

空間を使う“ひと”を中心に考える
（活動主体になるプレイヤーを含む）

＜取組例＞
・多様な利活用を実現するパブリックスペースの創出と運用
・街路と沿道が一体となった空間形成
・通過交通の分散等やアクセス環境の確保

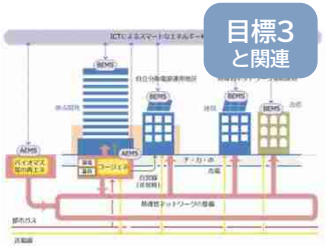
【参考イメージ】
南１条通社会実験

【参考イメージ】エレベーターの新設
（札幌市　札幌市バリアフリー基本構想）

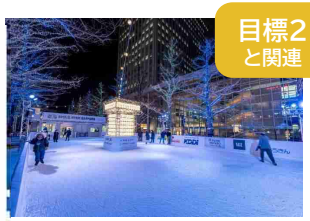
ゆき

雪や氷の活用、冬の快適性の向上により、札幌の魅力・活力となるように考える

＜取組例＞
・雪、冬季の景観への配慮
・冬季の空間活用の工夫
・積雪寒冷地に適した建物の省エネ化
・エネルギーネットワークインフラの活用



ZEB化、ZEH-M化
エネルギーネットワークインフラの活用



【参考イメージ】
北三条広場（アカプラ）のスケートリンク

みどり

まちの価値を高める
みどりの充実を考える

＜取組例＞
・良質で豊かなみどりの空間の創出
・みどりと調和した木材利用の促進
・みどりや木質化を強調したブランディング（持続可能な環境に配慮したまち
→GX投資にも繋げる）

【参考イメージ】
建物と調和した並木

【参考イメージ】
木材を活用した建物
（ザ ロイヤルパークキャンバス札幌大通公園）

【札幌市最上位計画】
第２次札幌市まちづくり戦略ビジョン
＜目指すべき都市像＞

「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなす輝きが、
豊かな暮らしと新たな価値を創る、
持続可能な世界都市・さっぽろ

6/30　検討会　提示資料

5.1　取組を進めるにあたって重視する考え方

重視する考え方

- 建物単体で考えるのではなく、公共と民間の取組が共鳴し、相乗効果をもたらすことが求められるため、取組を進める際のポイントを３つ示します。

社会実験と市民議論

社会実験等により使い方・使われ方を検証し、周辺地権者・市民等と合意形成をはかりながら、よりよいものをつくり、運用していく

エリアまちづくり

道路・エネルギーネットワーク等の基盤を含む地域特性を踏まえ、周辺地権者とともに中長期的なエリア価値の向上に努める
（エリアまちづくりを推進するさらなる支援策の検討）

既存ストック活用

新築に限らず改修も視野に、地域資源や既存インフラを活かしながら、課題や目的に応じた最適な手法を検討する
（規模等に応じた、きめ細かく機動的な対応や支援を検討）

6/30　検討会　提示資料
（ご意見を踏まえて一部修正）

5.2　重点的に進める取組

(1)　基礎となる取組

- まちづくりとエネルギー施策を一体的に誘導するため「札幌都心E！まち開発推進制度（Eまち制度）」を発展、強化

発展、強化のポイント

✓建物の脱炭素化とエリア価値の向上の双方につながる良好な開発の誘導
✓建物の立地、規模、用途構成などの特性に応じた適切な取組の誘導
✓既存建物の改修を捉えた誘導の強化
✓Eまち制度の発展、強化に合せて効果的な支援策についても検討

＜参考＞現行の取組

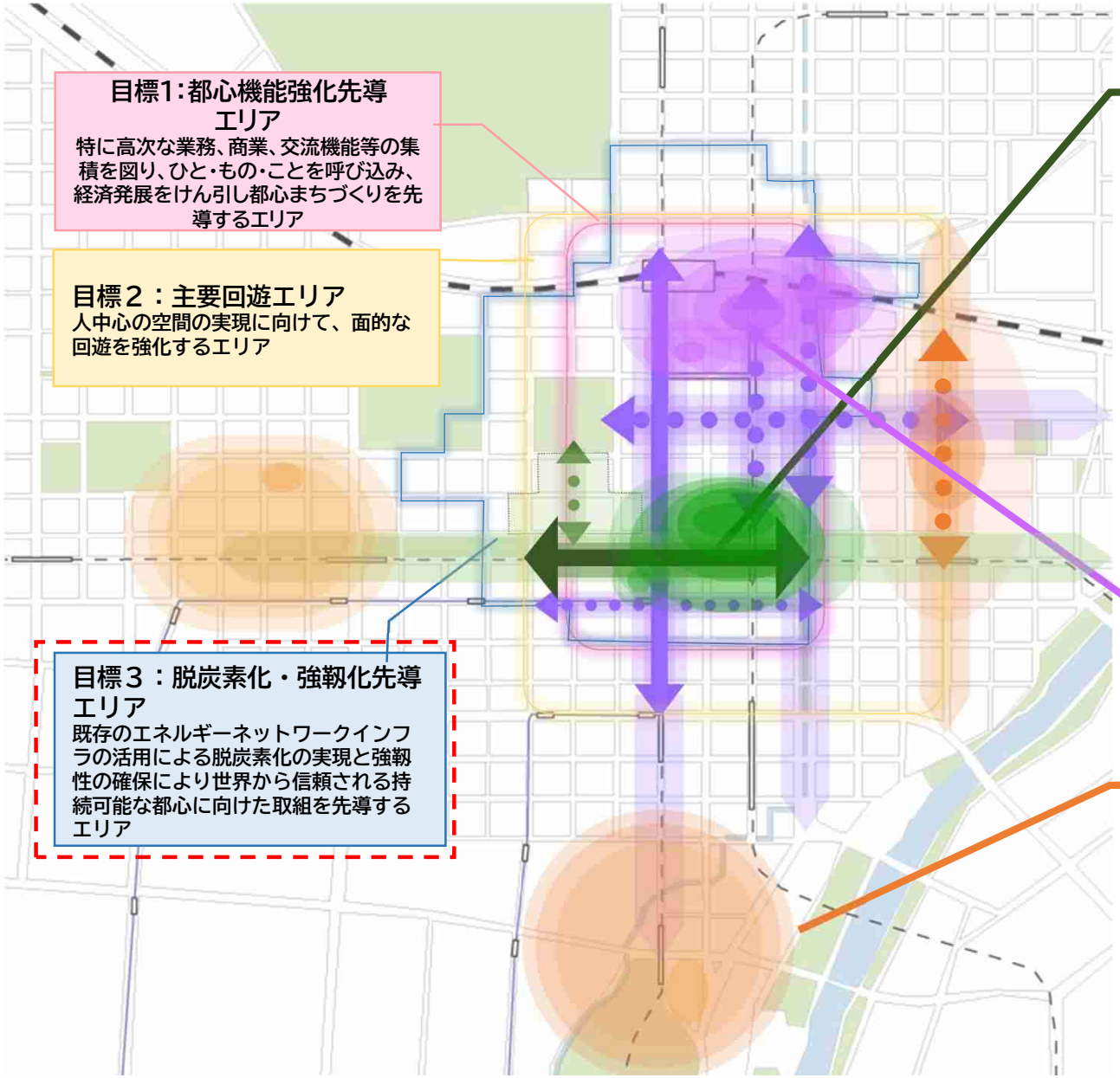
Eまち制度を通じた取組誘導と支援策の一体的な展開
・「都心における開発誘導方針」に基づく容積率緩和
・「ゼロカーボン推進ビル認定」による立地促進補助の割増し

6/30　検討会　提示資料
（ご意見を踏まえて一部修正）

5.2　重点的に進める取組

⑵　エリアごとの取組

今後の計画期間で、波及・連鎖していく可能性が高く、重点的に推進していくべき取組について示します。



重点1：大通・創世交流拠点とはぐくみの軸周辺

～世界が憧れ、市民が誇れる、都市ブランドの確立による新たな象徴空間の創出～

重点2：2つの交流拠点とそれらを繋ぐ都心まちづくりを先導するエリア

～目標の実現を先導し、国際競争力をけん引するまちの形成～

重点3：２つの展開拠点と展開軸

～都心の多様な魅力を高める、個性を活かしたエリアまちづくりの展開～

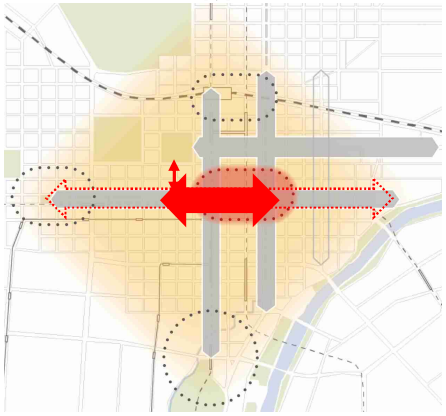
6/30　検討会　提示資料
（ご意見を踏まえて一部修正）

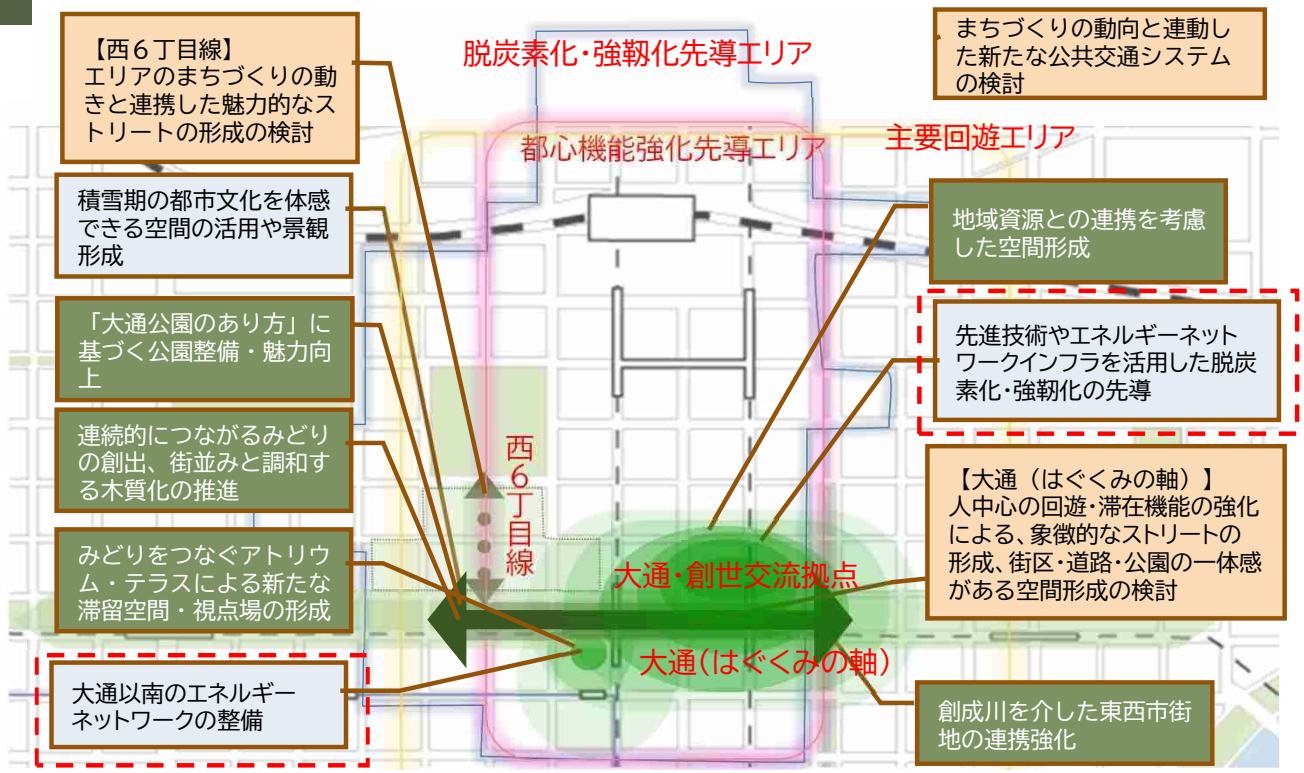
5.2　重点的に進める取組

⑵　エリアごとの取組

①大通・創世交流拠点とはぐくみの軸周辺

～世界が憧れ、市民が誇れる、都市ブランドの確立による新たな象徴空間の創出～





重点にする理由・ねらい

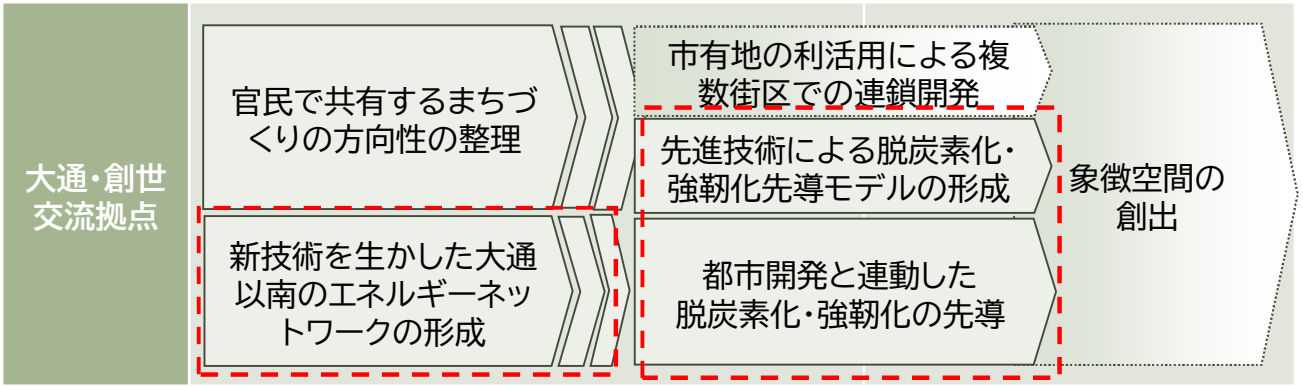
●大通公園をはじめとした札幌を代表する地域資源が集積し、国内外からの来街者も多く集まるため、取組による高い効果が期待できる

●次の20年で官民の連鎖的な開発と相互連携によって、街区・道路・公園を一体的に動かしていくべき場所

⇒多くの来街者の滞留や交流、様々な活動が生まれ、新たな価値を創造する

⇒豊かな時間を過ごせる優れた都市文化を醸成し、市民の生活の質を向上させるとともに都市ブランドを確立する

今後の進め方

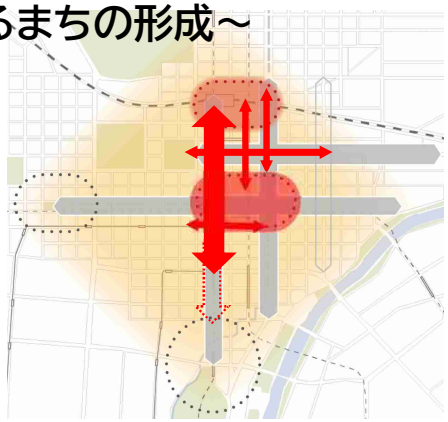


5.2　重点的に進める取組

⑵　エリアごとの取組

②2つの交流拠点とそれらを繋ぐ都心まちづくりを先導するエリア

～目標の実現を先導し、国際競争力をけん引するまちの形成～



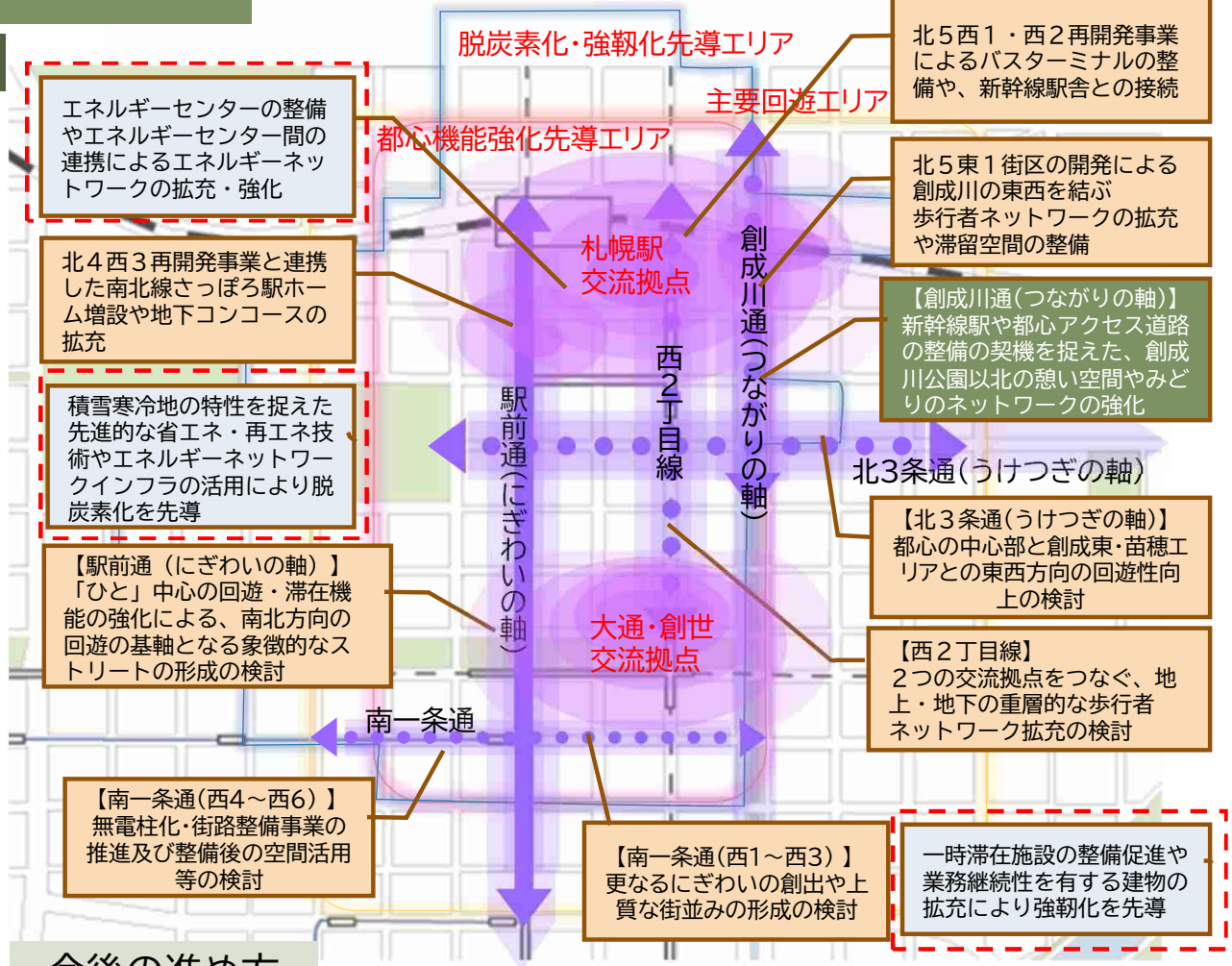
重点にする理由・ねらい

●高次都市機能集積、エネルギーネットワーク、歩行者ネットワーク、エリアマネジメントなどこれまでの取組の状況から、目標1・2・3を一体的に具現化・高次化していくエリア

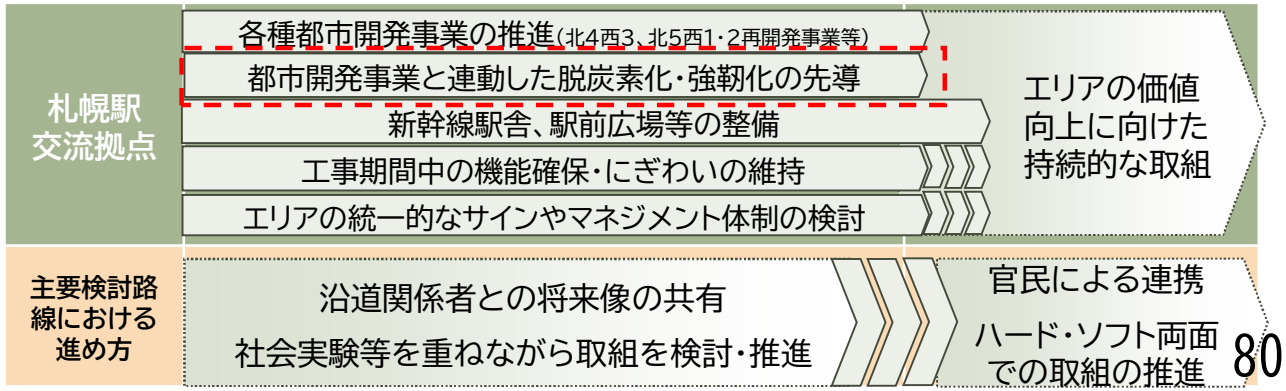
●札幌の玄関口としてまちのブランディングへの影響が大きく、**ゆき**や**みどり**を活かした景観や**ひと**の活動がみえる、札幌らしい魅力的な空間を形成することが重要

⇒都心まちづくりを先導し、エリア価値を高め、都心全体や他のエリアへその効果を波及させる

6/30　検討会　提示資料
（ご意見を踏まえて一部修正）



今後の進め方



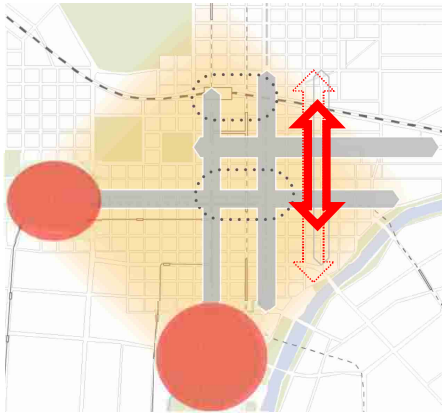
6/30　検討会　提示資料

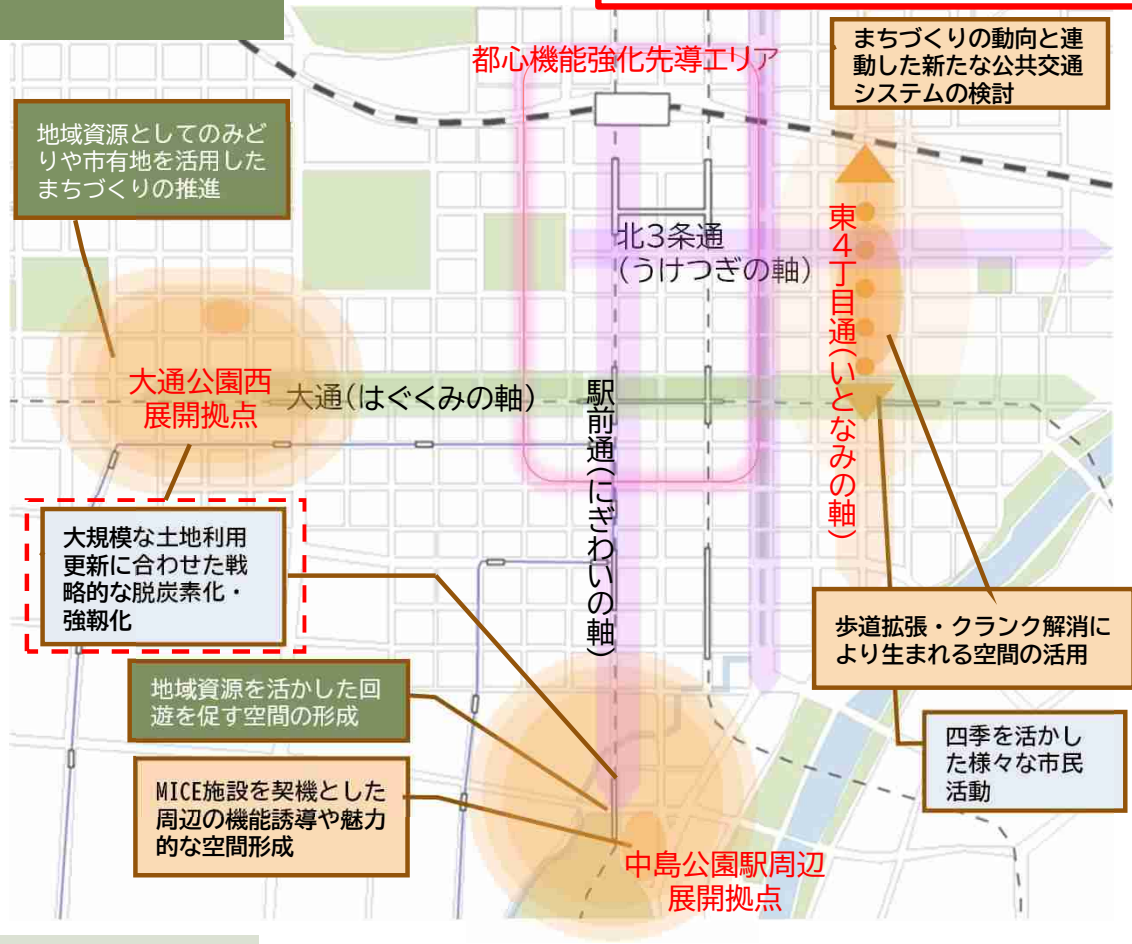
5.2　重点的に進める取組

⑵　エリアごとの取組

③2つの展開拠点と展開軸

～都心の多様な魅力を高める、個性を活かしたエリアまちづくりの展開～





重点にする理由・ねらい

●都心のコア（都心機能強化先導エリア等）とは異なる特徴・役割を明確にし、その特性に応じたまちづくりと脱炭素化を一体的かつ戦略的に進め、拠点・基軸としての独自性・存在感を高めることが求められる

⇒多様なニーズに応え、**都心全体の魅力を厚みのあるもの**とする

⇒魅力的な目的地となり、都心全体の回遊を促進する

今後の進め方

東4丁目通（いとなみの軸）	街路整備事業の推進 エリマネ団体の組成	道路空間、沿道との一体活用
大通公園西展開拠点	市有地（芸文館跡地）利活用検討 地域意見聴取機運醸成	ガイドライン策定 ガイドラインに基づく民間建物の誘導等
中島公園駅周辺展開拠点	MICE施設整備検討 地域意見聴取機運醸成	ガイドライン策定 ガイドラインに基づく民間建物の誘導等

序章　　計画策定の背景　・・・・・・・・・・・・・・・・P.９～10

第１章　計画の目的と位置付け・・・・・・・・・・・・・P.11～12

第２章　現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.13～18

第３章　理念・目標と都心の構造・・・・・・・・・・・・P.19～28

第４章　取組の方向・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.29～72

第５章　重点的に進める取組・・・・・・・・・・・・・・P.73～81

第６章　取組の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・P.82～84

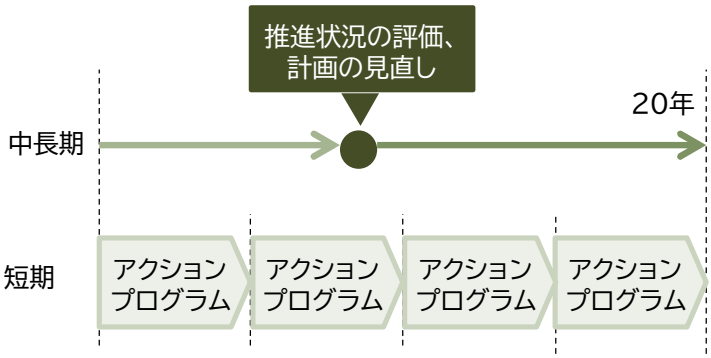
6.1　仕組みと体制

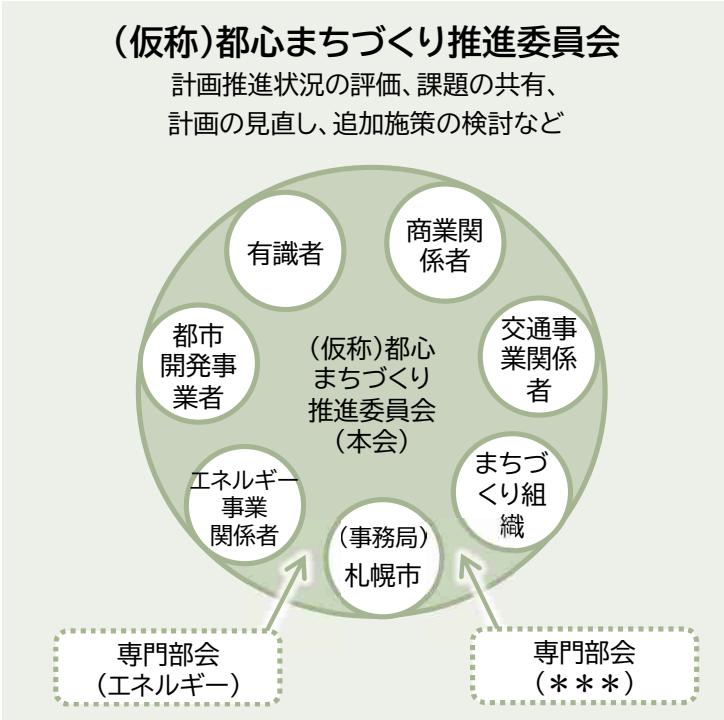
多様な主体が、都心全体の目標・ビジョンとして本計画を共有し、都心まちづくりのマネジメント機能を担っていくことを目指します。

- 具体の取組・施策をまとめた中期アクションプログラムを策定
  - おおよそ5年ごとに更新し、社会経済情勢の変化へ対応
  - 推進委員会で協議・検討し、官民の取組を反映

- 目標及び取組に応じた指標を設定
  - 適切な進行管理を強化

- （仮称）都心まちづくり推進委員会を設置
  - 多様な主体が参画し、指標をはじめ都心の状況の把握、計画の進捗状況の評価、新たな課題を共有する場として活用
  - 都心まちづくりの総合性と一体性を強化





6.2　連鎖的な取組の展開

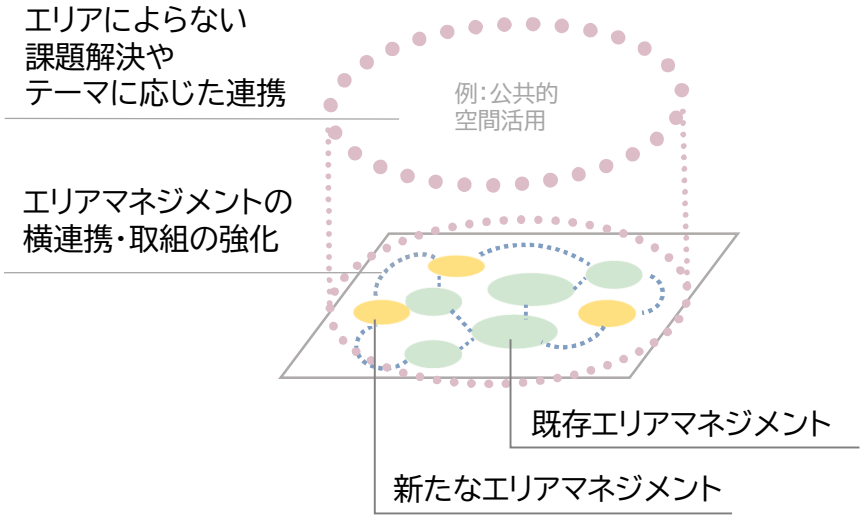
推進委員会で全体をマネジメントしながら、具体の取組は、以下の視点で官民協働を促します。
取組が連鎖することで、社会経済情勢の変化にも機動的に対応できる都心まちづくりを目指します。

①　まちづくりとエネルギー施策の総合性・一体性の向上

- 「札幌都心E！まち開発推進制度」について、まちづくりとエネルギー施策を総合的・一体的に推進するために強化を図り、これに基づく事前協議の機会等を通じて、建物の脱炭素化とエリア価値の向上の双方につながる良好な開発を誘導・調整します。

②　エリア別・テーマ別の取組のさらなる充実

- 新たなエリアにおけるエリアマネジメントの育成やエリア相互の連携を支援するとともに、エリアに即した地域による開発誘導やエネルギー・防災など新たなテーマに対応した取組を支援します。
- エリアを横断あるいは都心全体を対象とした、民間主体による課題解決やテーマに応じた取組に対しても、支援・連携を図ります。



目次

１　第３回エネルギー部会の振り返り

２　新たな計画の素案について

３　次回のエネルギー部会について

3　次回のエネルギー部会について

- 次回の部会では、本日いただいたご意見を踏まえて（仮称）第3次都心まちづくり計画の計画案（本書）をお示しする予定です。

序章　計画策定の背景

1章　計画の目的と位置付け

2章　現状と課題

3章　都心まちづくりの理念・目標と都心の基本構造

3.1　理念と目標

〈理念〉

世界が憧れ、市民が誇れる、札幌・北海道の都心

〈目標〉

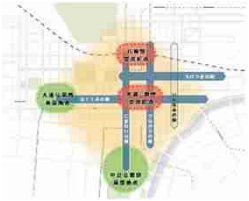
目 標 1
多様なひと・もの・ことが集まり新たな産業・文化・交流が生まれる都心
目指す姿（成果指標）

目 標 2
冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心
目指す姿（成果指標）

目 標 3
気候風土に即した先進的な取組により脱炭素化・強靭化が進む都心
目指す姿（成果指標）

3.2　都心の基本構造

（1）骨格構造
都心まちづくりを牽引する中核的な軸と拠点



（2）エネルギー施策のエリア区分
地域特性に応じたエネルギー施策を進めるエリア

4章　取組の方向

4.1　目標に向けた取組の方向

（1）目標1の実現に向けた取組の方向

（2）目標2の実現に向けた取組の方向

（3）目標3の実現に向けた取組の方向

4.2　都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

骨格軸　展開軸　交流拠点　展開拠点

5章　重点的に進める取組

6章　取組の進め方

仕組みと体制

連鎖的な取組の展開